

春日部市

公共事業景観形成ガイドライン

---



## はじめに

### ガイドラインの目的

景観の形成は、道路、河川・水路、公園・緑地、公共建築など公的空間の景観の向上を抜きにして考えられません。公共事業景観形成ガイドラインは、それぞれの公共事業が景観上果たすべき役割や実施（計画・設計）にあたっての留意点を指し示すことにより、景観形成の視点に立った事業の推進に役立てることを目的とするものです。

### ガイドラインの役割

公共施設は、景観の形成を図るうえでの基本となる施設であるとともに、先導的な役割を担うべき施設でもあります。しかしながら現実には、景観形成の視点にたって計画、設計された公共施設は少なく、その一方では景観の名のもとに過剰な設計、オーバーデザインの施設も見受けられるようになってきています。また、景観は個々の施設の相互連携によって形成されるという総合的な性質を持つにもかかわらず、それぞれの担当セクション間のコミュニケーションが不十分なことにより、公共施設による景観づくりの効果が発揮されていない場合も多いようです。

公共施設整備による景観形成に絶対的な解答があるわけではありません。公共施設整備に際して、景観形成のためにいったい何ができるのかを、それぞれの担当者が考えることがまずは第一歩となります。

本ガイドラインは、公共施設整備にあたっての景観形成上の視点や配慮点を示し、各事業担当者に具体的な景観整備について考えるきっかけを提供する役割を持つものです。

また併せて、実際の計画・設計に関わる職員の参考資料として活用されることはもちろんのこと、各セクションの人々のお互いのコミュニケーションを深める共通の材料となることを期待するものです。

## ガイドラインの構成と使い方

このガイドラインは、大きく3つのパーツによって構成されています。各パートの内容とそれに対応する取り組み方を左頁に、利用対象と何をするのかを右頁に示していますので、職員各自が、どの場面でのように関わるべきかを認識しながら活用してください。

### 1.春日部らしい景観形成に向けて

- 春日部市における景観形成の基本的方向
- 公共事業の課題と基本指針



理念を 把握する

### 2.景観づくりの考え方

- 計画している公共事業での可能な景観づくり



考える  
景観指針を  
議論する  
まとめる

- STEP 1 春日部市全体の中でとらえる  
・春日部市の景観構造の確認



○景観類型からみた役割について考える

- STEP 2 まちなみの中で考える  
・計画地及び計画施設の問題・課題の整理



○現況の景観チェック  
○カルテマップづくり

- STEP 3 景観づくりの計画を整理する  
・問題・課題への対応を踏まえた景観整備の基本方向の検討



○テーマづくり  
○景観整備プラン作成  
○施設別指針の確認と検討図づくり

- STEP 4 管理計画を立てる  
・景観整備に必要な管理面の配慮事項の確認



○景観管理チェック

### 3.施設別景観整備マニュアル

- 施設別指針を補足するデザイン事例集  
p.34～49 道路 p.50～61 河川・水路  
p.62～71 公園・緑地 p.72～81 公共建築



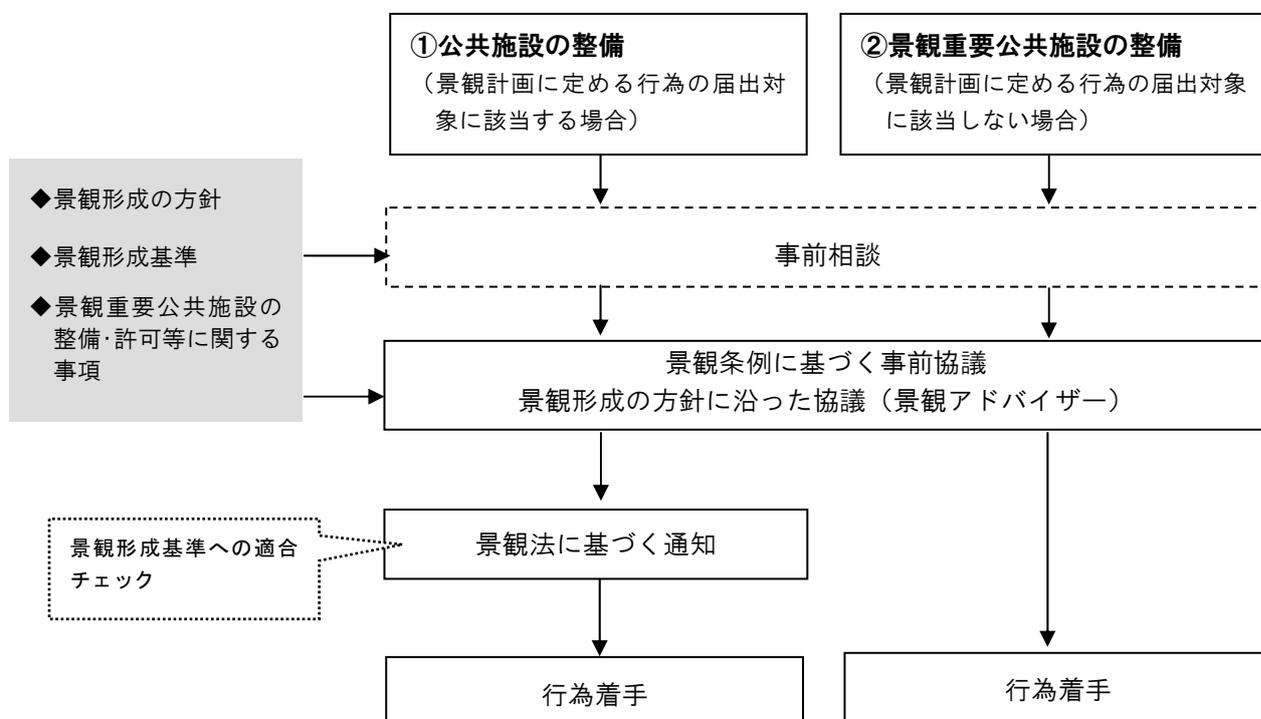
設計手法を 参考にする

利用対象				関連機関	
主管課 (計画・設計担当)	景観係	維持管理担当	全職員	景観 アドバイザー	研究会
<p>公共事業に携わる方は、みなさん目を通してください。 そして、それぞれの公共施設の景観に対する役割について考えましょう。</p>					
<p>「春日部市景観計画」を理解してください。</p>					
<p>計画中の公共事業について現況チェックを行い、景観づくりの課題を抽出してください。そして、その結果を地図上に整理してみましょう。</p>				○	○
<p>課題への対応を踏まえて、その公共事業でどんな景観整備が可能か検討してください。検討結果は、景観整備プラン及び検討図にまとめましょう。</p>				○	○
<p>景観管理に対する視点から、その施設に必要な管理面の配慮事項をあらかじめチェックしておきましょう。</p>				○	○
<p>パート2の景観整備の考え方をまとめるにあたって、あるいはそれぞれの公共事業を実施する際に、景観整備の手法集として参考にしてください。また、景観に関する勉強資料としても役立ててください。</p>					

## 公共施設等の整備に関する協議

景観重要公共施設（景観法第8条第2項第4号）とならない公共施設についても、景観法第16条第5項に定める通知制度を活用し、同条第6項に定める協議を行います。協議においては、必要に応じて景観アドバイザーによる専門的な意見を加えて、より優れた景観の形成と先導的役割としてのリーダーシップを図るべく魅力ある公共施設景観を形成します。

図 公共施設の景観誘導の流れ



# 1.春日部らしい景観形成に向けて

## 春日部市の景観

本市における景観形成の基本的方向を明らかにするものとして、「春日部市景観計画」が策定されています。これは、「春日部市総合振興計画」と「春日部市都市計画マスタープラン」の計画理念や施策の方向付けを基本としており、特に景観形成面の内容を補完するものとして位置付けられています。

景観計画は、景観形成の基本方針、ゾーン別景観形成の方針などから構成されており、春日部市の景観形成においてマスタープランとして位置付けられます。したがって、先導的役割を担う公共事業を進めるにあたっては、その内容を把握し、理解しておく必要があります。

ここでは、その中から、「景観形成の目標」及び「景観構造」を取り上げ、提示します。

### **[景観形成の目標] しあわせに住まう「緑彩水都」づくり**

歴史と文化の中で緑豊かな季節の風景を楽しめ、多様な景観資源を有し、彩の国の中核都市である本市は、心地よさの基本といえるエコまちづくりに取り組む先進的都市として、しあわせに住まう「緑彩水都」づくりを、景観形成の基本目標として定めます。

### **[景観形成の基本方針]**

- 1) 埼玉県東部の中心都市として魅力と賑わいのある景観形成
- 2) 地域の個性と文化の魅力を享受できる景観形成
- 3) 水と緑と田園を生かし環境に配慮した景観形成
- 4) 民間行政協働により永く市民に親しまれる景観形成

## 景観形成の基本構造とゾーン区分

本市全域を俯瞰してみる景観構造は、市の魅力を把握する上で重要です。その基本的景観構造を明確にすることで、市民にとってわかりやすく親しみやすくなり、メリハリのある構造を形成していきます。

### ① 3つの大きな河川景観軸

- ・古利根川、江戸川、中川の大きな河川が基本的な骨格を作る水の軸

### ② 南北の鉄道・道路交通軸と環状道路軸

- ・広域幹線道路、鉄道
- ・都心・副都心をつなぐ新しい環状道路軸

### ③ 8つの駅を中心とした拠点景観

- ・春日部駅都心拠点、南桜井副都心拠点、その他の駅前拠点

### ④ コンパクトな市街地と、市街地を囲んで広がる田園集落（伝統的な散居集落と水塚）



古利根川



田園集落



藤通り

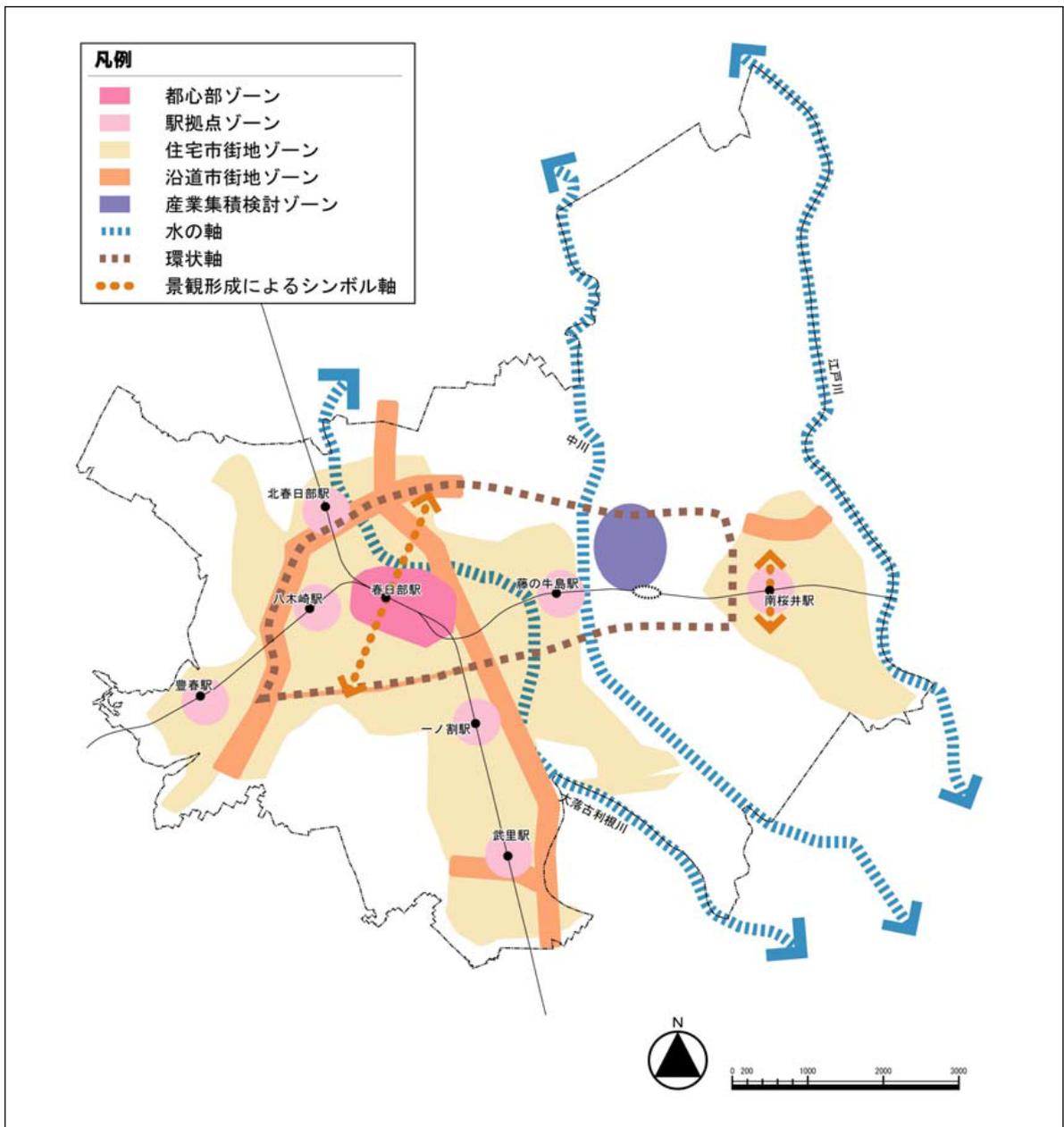


春日部駅（北口・公園橋通り）



南桜井駅

図：景観構造図



## 公共事業の課題と基本指針

春日部市景観計画で提示している景観形成の目標と 4 つの方針及び公共施設の現状を踏まえ、公共事業における基本指針として、次のような 3 つの柱を定めます。

### A 地域にふさわしい 景観づくり

大落古利根川などの河川、内牧などの緑豊かな田園、ゆとりある住宅地など、春日部市にはそれぞれに特徴のある景観があります。また、一方で都心部や新市街地を中心に新しい開発が進むものと考えられます。水・緑・歴史の景観づくり、また新たな都市空間づくりにおいて公共施設整備の果たす役割には大きなものがあります。それぞれの地域の景観特性の維持向上に、そして新たな地域景観の創出に、公共施設は積極的に関わっていく必要があります。

このようなことから、「地域にふさわしい景観づくり」を指針の柱として設定します。

### B まちにやさしい 景観づくり

まちづくり、景観づくりは、そこに住み、働く人々が主役です。都市空間、景観は人々をやさしく包んでくれるものでなければなりません。しかし、現実には人々を圧するような構造物、緑の少ないうおいのない施設、周りを囲い込み人々の出入りや視線を阻害している施設、また一方では景観を考え過ぎるあまりにオーバーデザイン気味の施設なども少なからず見受けられます。

このようなことから、人々が安心かつ安全に、そして快適に住まい、働くことのできる「まちにやさしい景観づくり」を指針の柱として設定します。

### C 手を取りあう 景観づくり

都市空間や景観は人々のためのものです。そして、様々な施設の複合体として景観が形成されています。しかし、現実にはそれぞれの施設が個々の空間としてとらえられ、別々に整備されているケースが少なくありません。公共内部の間で、あるいは公共と民間の間で、ほんの少し相互に相談し協調すれば、人々にとって使いやすい、また景観としてもよくなったであろう施設も見受けられます。

このようなことから、人々のためのよりよい景観づくりを目指して、事業者が互いに協力し合う「手を取りあう景観づくり」を指針の柱として設定します。

#### **A-1 地形や自然（水・緑）を活かした景観づくり**

主に農業集落ゾーン、河川・水路沿い一帯

#### **A-2 歴史や伝統を活かした景観づくり**

主に旧宿場一帯、農業集落ゾーン

#### **A-3 地域イメージを育む景観づくり**

主に都心、地域生活拠点、新たな開発・整備地区

#### **A-4 地域のシンボルとしての景観づくり**

主に都心、地域生活拠点、公共サービス施設

#### **B-1 ひとにやさしい景観づくり**

#### **B-2 目にやさしい景観づくり**

#### **B-3 市民に開かれた景観づくり**

#### **C-1 総合的で協調的な公共景観づくり**

#### **C-2 民間と連携した景観づくり**

## 2.景観づくりの考え方

### 景観づくりの手順

公共施設の企画・構想段階（計画の初期段階、少なくとも基本設計の前）で、春日部市全体の中でその公共施設が果たすべき景観上の役割や、まちなみの中での景観づくりの課題、そして公共施設整備に際しての景観形成の基本的な考え方や方針、また設計、管理に反映すべき具体の対応を明らかにしておく必要があります。

公共施設整備にあたっては、まず右に示すような4つのステップで景観上からのチェック・検討を行ってください。

景観づくりにおいては、関係者それぞれが考える、みんなで議論する、調整していくというプロセスが非常に大切です。その際の材料として、各ステップごとに用意しているシートやリストを活用してください。そして作成したシートや図面などは、今後の参考資料として役立てていきましょう。

## STEP 1 春日部市全体の中でとらえる

- 春日部市景観計画を理解するためにチェックシートを作成する。  
(p. 12～13 参照)

①基本計画の  
チェックシート



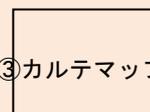
## STEP 2 まちなみの中で考える

- チェックリストを活用し、現状の問題・課題を確認する。
- 問題・課題を地図上に落として、カルテマップをつくる。  
(p. 14～19 参照)

②現況チェックシート



③カルテマップ



## STEP 3 景観づくりの計画を整理する

- 現況チェックの結果をふまえて整備テーマを設定する。
- 課題とテーマをふまえて景観整備プランシートを作成する。
- 景観整備検討図をつくる。  
(p. 20～28 参照)

④テーマシート



⑤景観整備プランシート



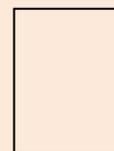
⑥検討図



## STEP 4 管理計画を立てる

- チェックシートを活用し、景観管理の視点を持つ。  
(p. 29～31 参照)

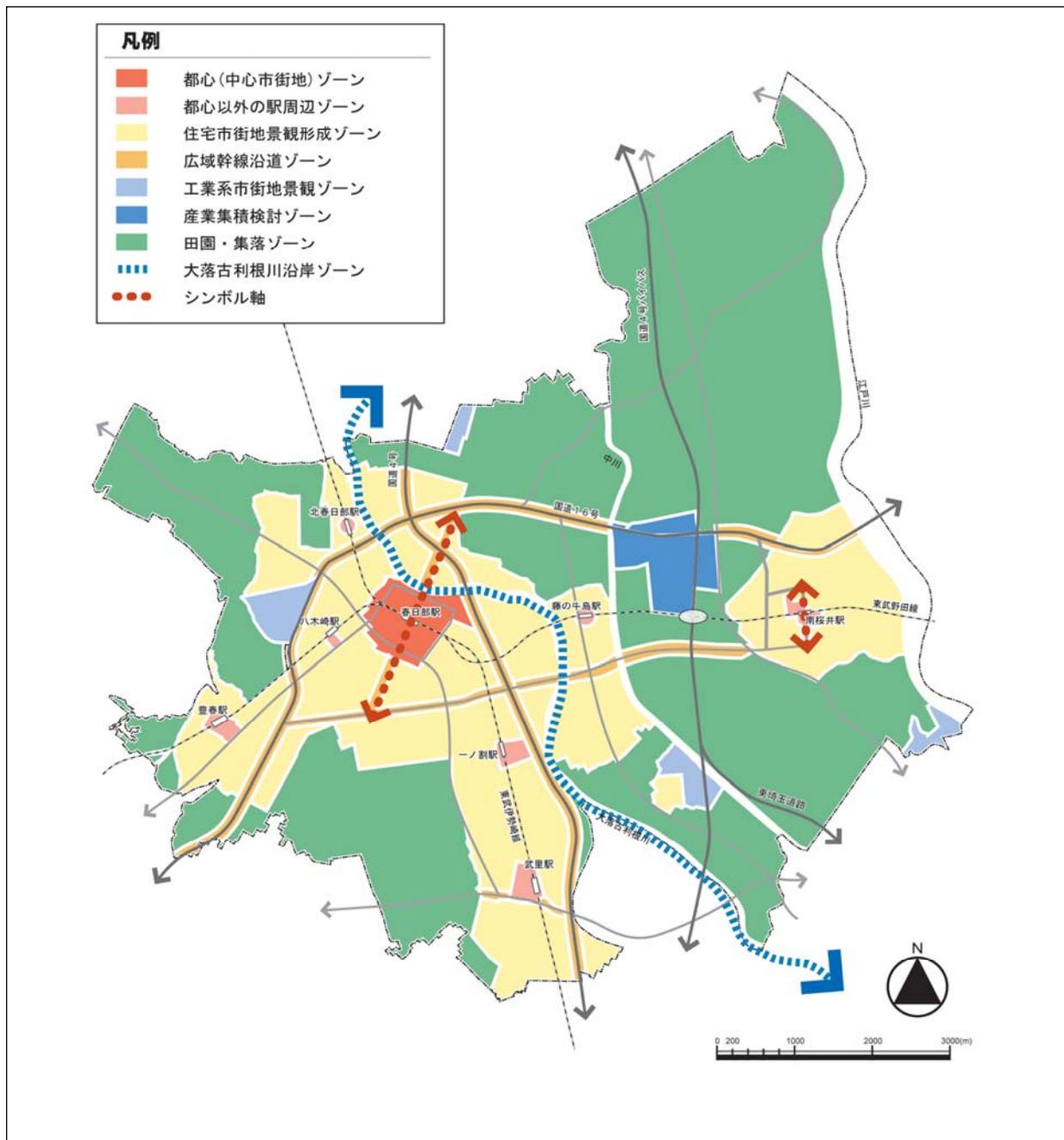
⑦景観管理の  
チェックシート



## STEP 1 春日部市全体の中でとらえる

公共施設の計画を行うに当たっては、広い春日部市の中のどこに位置するのか。そしてその施設がどんな景観上の役割をもつべきなのかを全市的な視点で把握しておくことが大切です。市では「春日部市景観計画」を策定していますので、これをもとに広い視点からの公共施設の景観づくりの基本的な考え方を検討してください。

図 ゾーン別景観形成の方針



●春日部市の中で位置をとらえる

春日部市の景観は左の図のように分類できます。

あなたが計画している施設はどこに位置し、どの区分に分類されますか？

□位置

□ゾーン

●全市の景観形成の基本方針からとらえる

春日部市の景観形成の基本方針を把握していますか？



「春日部市景観計画」(p. 10) をご覧ください

●景観形成ゾーンの中でとらえる

施設が位置するゾーンの特性、課題、また方針を把握していますか？



「春日部市景観計画」(p. 12~14) をご覧ください

●計画する公共施設の景観上の役割を考える

上記の 3 点をふまえ、あなたが計画している公共施設の市全体あるいは景観形成ゾーンでの景観上の役割を考えてみてください。

## STEP 2 まちなみの中で考える

公共施設の計画の立案にあたっては、まず計画地を実際にみて、景観上の問題・課題を抽出することからとりかかりましょう。計画している施設と周辺のまちなみとの調和をはかっていくためにはどうしたら良いかを考えてください。

### 現状の景観チェック

計画地及びその周辺を実際に歩いて、次に示す項目をチェックしてみてください。

チェックリストは、3つの指針の柱をよりどころに構成していますが、これら以外にも気にかかる要素がある場合はメモしておくようにしましょう。また、ポイントとなりそうな場所等は、写真を撮っておくようにしましょう。

## A 地域にふさわしい景観づくり

A-1

### 地形や自然（水・緑）を活かした景観づくり

- 地形の変化はありますか？
- 周辺に樹林地や河川・水路がありますか？
- 周囲に特色ある美しい風景がみられますか？

A-2

### 歴史や伝統を活かした景観づくり

- 史跡文化財、お祭り等地域の歴史的な資源がありますか？
- 古い集落や歴史を感じさせるまちなみがありますか？

A-3

### 地域イメージを育む景観づくり

- 「総合振興計画」及び「都市計画マスタープラン」の中での位置づけや、関連するプロジェクトについて確認していますか？
- 地域の将来像やまちづくりの方向性は決まっていますか？
- 周辺に特色のある施設や空間がありますか？

A-4

### 地域のシンボルとしての景観づくり

- 計画している施設の位置づけをどうとらえますか？  
(全市的、地域的、地区的、個別的)
- 計画施設はどこからよく見えますか？

## B まちにやさしい景観づくり

B-1

### ひとにやさしい景観づくり

- 現状で安全でない状況がありますか？
- 誰もが安心でき、安全に利用できる空間が確保できますか？
- 子どもやお年寄り、体の不自由な人たちへの配慮が必要な空間がありますか？

B-2

### 目にやさしい景観づくり

- 現状で景観面からの阻害要因や問題点がありますか？
- 構造物がまちなみに圧迫感を及ぼすおそれがありますか？
- 緑や花や水を配して、まちに彩りやうるおいを与える必要はありますか？
- まちなみ空間を演出する必要はありますか？  
またそのための効果的な場所がありますか？

B-3

### 市民に開かれた景観づくり

- 市民に向けて開かれた空間をつくるための場所がありますか？
- 人々が自由に入出りできる場所や空間を確保できる場所がありますか？
- 塀、柵などの境界施設で閉鎖的になっている場所がありますか？
- 眺望（見晴らし）の良い場所がありますか？

## C 手を取り合う景観づくり

### 総合的で協調的な公共景観づくり

C-1

- 計画地の周辺にまちなみ景観として一体利用の考えられる既存の公共施設あるいは計画中の公共施設がありますか？
- その施設の所管課との調整は可能ですか？

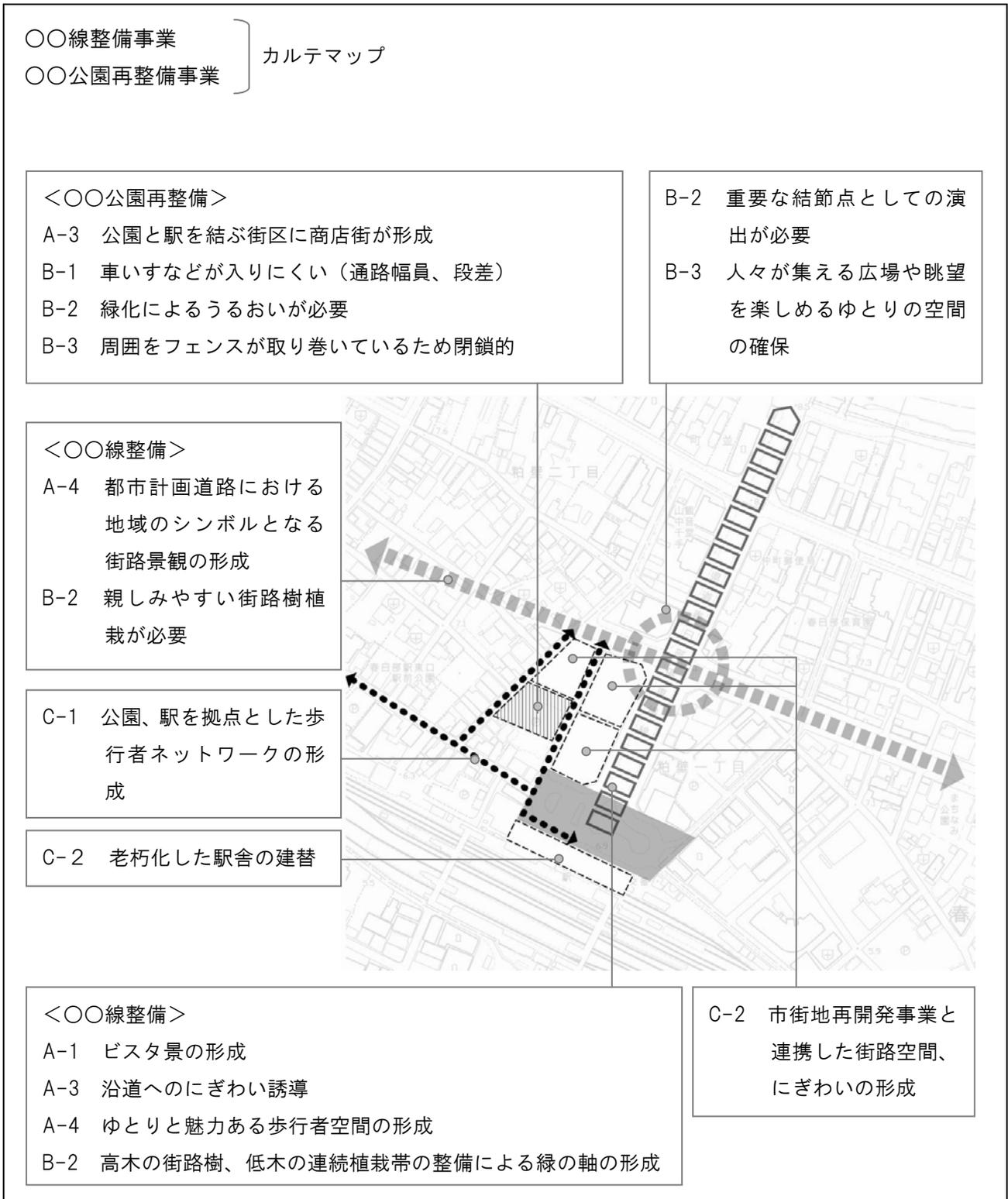
### 民間と連携した景観づくり

C-2

- 計画地の周辺にまちなみ景観として一体利用の考えられる既存の民間施設や構想計画中の施設がありますか？
- 民間への働きかけや調整は可能ですか？

## カルテマップづくり

景観チェックによって抽出した問題・課題を、具体的、即地的に図に記してみましよう。  
以下にカルテマップのつくり方（例）を掲載します。



- 〇〇川改修事業
- 〇〇小学校改築事業
- 〇〇橋架替え事業
- 〇〇公園再整備事業

カルテマップ

<〇〇小学校改築>

- A-4 橋上からの眺望景觀に配慮した建築形態
- B-1 誰でも利用できるバリアフリー化の推進
- B-2 建物老朽化のため改築が必要
- C-1 川沿い遊歩道の桜並木、隣接する公園と連携した緑のネットワークの形成

<〇〇川改修事業>

- A-4 既存の桜並木の延伸
- B-1 水に近づきやすい緩やかな護岸
- B-3 沿岸の遊歩道のネットワーク形成



<〇〇公園再整備>

- C-1 河川への眺望を楽しめる憩いの場の形成
- C-1 川沿い遊歩道の桜並木、隣接する小学校敷地と連携した緑のネットワークの形成

<〇〇橋架替え>

- A-4 生活道路と水路の結節点
- B-1 橋にゆとりある歩行者空間がない
- B-3 河川の眺望を楽しめるスペースがない

## STEP 3 景観づくりの計画を整理する

ステップ1、ステップ2のチェックをふまえ、整備テーマの設定、及びその事業で対応できる景観整備の基本方向について検討し、景観整備プランをまとめてください。

### テーマの設定

景観づくりの基本方向を見極める第一歩として、「テーマ」の設定に取り組みましょう。

人は各々多様な価値観をもっています。様々な人々がそれぞれの場所で勝手な個性の表現をすると、まちなみは混乱したものとなってしまいうでしょう。そこで、まち全体として脈絡のある個性を形成していくために、みんなのイメージをまとめる拠り所としてのテーマづくりが必要です。

地域の性格にふさわしい景観づくりをするためにも、また景観を構成する様々な要素のデザインを一定の方向に導くためにも、テーマの設定は大変重要といえます。

●以下の要件について考察し、そこからあなたが計画している施設の景観面からのテーマを導き出してください。

- 計画地固有の自然資源 
- 計画地固有の歴史資源 
- 将来に残したい習慣やイベント 
- 現況及び将来の土地利用 
- 現在の地域イメージ  
(まちの雰囲気) 
- 上位計画等の位置づけ(方針) 
- その他 

〈整備テーマ〉

## 景観整備プラン

景観整備の課題とテーマを踏まえて、公共施設整備で可能な景観づくりの計画を整理しましょう。

- 3つの柱からなる基本指針を基に、それぞれの公共施設（道路、河川・水路、公園・緑地、公共建築）で配慮すべき点を「施設別指針」としてまとめています。

→24～27 頁

この施設別指針を、課題に対する基本的な配慮事項として参考にしながら、以下の景観整備プランを記入してください。

A-1 地形や自然（水・緑）の活用の方法や対応をどうしますか？

A-2 歴史的資源や伝統的まちなみなどについて景観上どう対応しますか？

A-3 現況特性及び将来計画・関連プロジェクトを踏まえた地域イメージがありますか？

A-4 地域のシンボルとして景観上どう対応しますか？

B-1 誰もが安心でき、安全に利用できるようにするにはどう配慮しますか？

B-2 景観阻害要因の解消やまちにゆとりやうるおいを与える工夫としてどんなことが考えられますか？

B-3 市民に開かれた空間をつくり出す工夫としてどんなことが考えられますか？

C-1 周辺にある公共施設と協調した景観づくりについてどう配慮しますか？

C-2 周辺の既存民間施設や構想計画中の施設との景観的な連携について、どんな提案がありますか？

# 道路整備の指針

		具体例 掲載頁
<b>A 地域にふさわしい景観づくり</b>		
A-1 地形や自然（水・緑） を活かした景観づくり	○地形や周辺の樹林地景観との調和に配慮する。 ○河川・水路景観との調和に配慮する。 ○眺望空間の確保に努める。	37・39 37 41・43
A-2 歴史や伝統を活かした 景観づくり	○歴史性を継承したデザインの展開に努める。	37
A-3 地域イメージを育む 景観づくり	○地域の将来像に基づく道路景観づくりに努める。 ○道路の景観ネットワークの形成に努める。	37
A-4 地域のシンボルとしての 景観づくり	○ゆとりと魅力のある歩行者空間の整備に努める。 ○連続性の強調と結節空間の演出に努める。	39・47・49 41・43
<b>B まちにやさしい景観づくり</b>		
B-1 ひとにやさしい景観づくり	○安全で安心して歩ける歩行者空間の確保に努める。 ○子供やお年寄り、体の不自由な人たちに配慮した空間づくりに努める。	39・43 39
B-2 目にやさしい景観づくり	○ヒューマンスケールの確保に努める。 ○シンプルデザインに努める。（オーバーデザインを避ける） ○基調色は周辺になじむものとし、また付帯施設等の色彩に配慮する。 ○道路線形に応じた多様な緑化を図り、うるおいある景観づくりに努める。	39・43 47・49 45・47 39・45
B-3 市民に開かれた景観づくり	○交差点広場、まちかどの広場、駅前広場など市民の憩える開かれた空間づくりに努める。	41・43
<b>C 手を取りあう景観づくり</b>		
C-1 総合的で協調的な 公共景観づくり	○沿道公共施設整備との空間整備の協調に努める。	39
C-2 民間と連携した景観づくり	○沿道民間開発と連携したセミパブリック空間の形成に努める。	41・43

## 河川・水路整備の指針

		具体例 掲載頁
<b>A 地域にふさわしい景観づくり</b>		
A-1 地形や自然（水・緑） を活かした景観づくり	○沿川の樹林や田園などの自然景観に配慮する。 ○道路・橋梁景観との調和に配慮する。 ○眺望の確保に努める。	53・55 57 57
A-2 歴史や伝統を活かした 景観づくり	○河川・水路と地域の人々との古くからの関わりを大事にした景観形成に配慮する。	53
A-3 地域イメージを育む 景観づくり	○地域の将来像に基づく水辺景観づくりに努める。 ○河川・水路の景観ネットワークの形成に努める。	53・55
A-4 地域のシンボルとしての 景観づくり	○河岸の並木を保全し、うるおいのある河川景観づくりに努める。 ○地域住民に親しまれてきた現状の河道を重視した景観づくりに努める。 ○合流点や分岐点では要所としての演出に努める。	59 55 57
<b>B まちにやさしい景観づくり</b>		
B-1 ひとにやさしい景観づくり	○治水を考慮しつつ、自然環境の復元に努める。 ○生活に身近な憩いの場となるような水辺空間づくりに努める。	55・59 57・61
B-2 目にやさしい景観づくり	○沿川の道路などからできるだけ水面が見えるよう配慮する。 ○シンプルデザインに努める。（構造物等が目立たない工夫） ○流れる水を活かした表情豊かな景観づくりに配慮する。	53・55・61 57・61 59
B-3 市民に開かれた景観づくり	○水に親しめる空間の形成に努める。	53・55・57
<b>C 手を取りあう景観づくり</b>		
C-1 総合的で協調的な 公共景観づくり	○沿川公共施設整備との空間整備の協調に努める。	53・57
C-2 民間と連携した景観づくり	○沿川民間開発と連携したセミパブリック空間の形成に努める。	

## 公園・緑地整備の指針

		具体例 掲載頁
<b>A 地域にふさわしい景観づくり</b>		
A-1 地形や自然（水・緑） を活かした景観づくり	○敷地内あるいは周辺に残存する樹木の保全、活用に努める。	65・69
	○地形を生かすとともに周辺環境との調和に配慮する。	65・67
A-2 歴史や伝統を活かした 景観づくり	○歴史的景観資源を活用し、個性豊かな空間づくりに配慮する。	65
A-3 地域イメージを育む 景観づくり	○地域の将来像に基づく公園景観づくりに努める。	65
	○景観ネットワーク上の拠点の形成に努める。	65
A-4 地域のシンボルとしての 景観づくり	○地域の特色を活かした植栽に努める。	65・69
	○入口部は公園の顔として表情豊かな演出に配慮する。	67
<b>B まちにやさしい景観づくり</b>		
B-1 ひとにやさしい景観づくり	○誰もが安心して利用できる憩いとうるおいの空間づくりに努める。	67・69・71
	○子どもやお年寄り、体の不自由な人たちに配慮した空間づくりに努める。	67
B-2 目にやさしい景観づくり	○境界部は、まちなみにゆとりやアクセントを与えるよう配慮する。	67
	○緑と調和する色彩、素材の選択に配慮する。	71
	○四季の変化が楽しめる植栽等を施し、彩りある景観づくりに努める。	69
B-3 市民に開かれた景観づくり	○入口や境界部の開放性の確保に努める。	67
	○地域のコミュニティ活動等に配慮し、開放的な空間づくりに努める。	65・67
<b>C 手を取りあう景観づくり</b>		
C-1 総合的で協調的な 公共景観づくり	○周辺公共施設整備との空間整備の協調に努める。	67
C-2 民間と連携した景観づくり	○隣接する民間施設とのオープンスペースの連携に配慮する。	

## 公共建築整備の指針

		具体例 掲載頁
<b>A 地域にふさわしい景観づくり</b>		
A-1 地形や自然（水・緑） を活かした景観づくり	○敷地の周辺環境の特徴を活かした配置・形態に配慮する。 ○地形を活かし、まちなみに合わせた建築計画に努める。	75・77 75・77
A-2 歴史や伝統を活かした 景観づくり	○歴史性を継承したデザインの展開に努める。	75
A-3 地域イメージを育む 景観づくり	○将来的なまちなみを意識した建築づくりに努める。 ○景観ネットワーク上の拠点の形成に努める。	75 75
A-4 地域のシンボルとしての 景観づくり	○ゆとりと魅力のオープンスペースの確保及び演出に配慮する。 ○地域のランドマークとしての役割に配慮する。	75・77 75・79
<b>B まちにやさしい景観づくり</b>		
B-1 ひとにやさしい景観づくり	○親しみやすい建築デザインに努める。 ○子どもやお年寄り、体の不自由な人たちに配慮した空間づくりに努める。	77・79・81 81
B-2 目にやさしい景観づくり	○ヒューマンスケールの確保に努める。 ○基調色は周辺になじむものとし、また付帯施設等の色彩に配慮する。 ○屋外設備等は建築物と一体的にデザインするように努める。	75・77 79・81 81
B-3 市民に開かれた景観づくり	○入口や境界部の開放性の確保に努める。 ○市民が気軽に利用できるような開放的な空間づくりに努める。	77 77・81
<b>C 手を取りあう景観づくり</b>		
C-1 総合的で協調的な 公共景観づくり	○周辺公共施設整備との空間整備の協調に努める。	
C-2 民間と連携した景観づくり	○隣接する民間施設とのオープンスペースの連携に配慮する。	

## 検討図づくり

景観整備プランをより具現化するために、検討図をつくることをおすすめします。

自分自身の考えを整理するためにも、また他の人々に計画を理解してもらうためにも、検討図は効果的といえます。

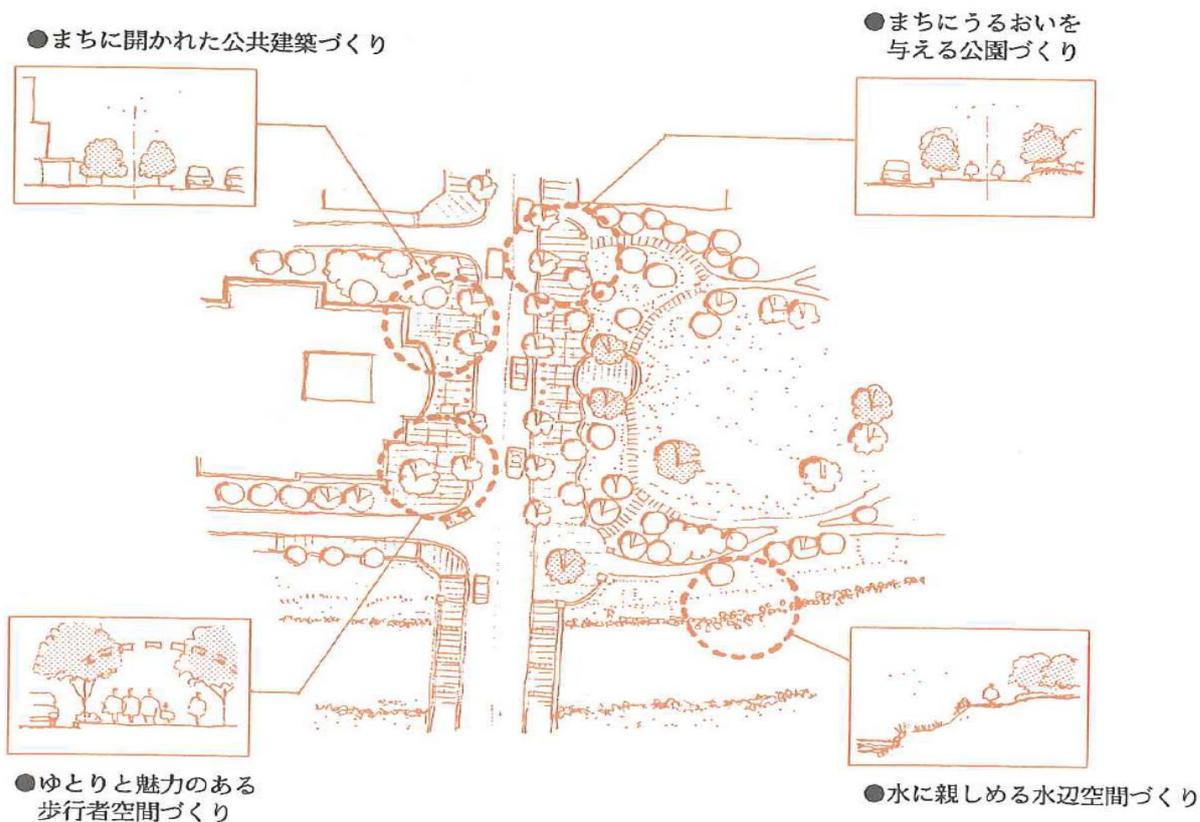
(例図は以下の頁に掲載していますので、参考にしてください。)

●道路の景観整備検討図 → 35 頁をご覧ください。

●河川・水路の景観整備検討図 → 51 頁をご覧ください。

●公園・緑地の景観整備検討図 → 63 頁をご覧ください。

●公共建築の景観整備検討図 → 73 頁をご覧ください。



## STEP4 管理計画を立てる

ステップ 3 でまとめた景観整備の基本方向を基に、その施設に必要な管理面の配慮事項をチェックし、計画的な維持管理を心掛けてください。

### ●景観管理の視点を持つ

人為的な施設は、通常出来上がったときに最も良く、時間の経過とともに老朽化が始まります。当初優れた景観を呈していた施設が、時間の経過の中で無残な姿となっているケースもよく見受けられます。

エイジング・デザイン（時のデザイン）という言葉があります。例えば、建築物は竣工時がそのピークで、そこから老朽化が始まります。一方、樹木は植栽されたときはみすぼらしくても、そこから成長が始まり、十年もすれば豊かな緑の空間を我々に提供してくれます。また、石のような自然素材は時間が逆に味わいを与えてくれます。エイジング・デザインとは、時間の及ぼす変化をあらかじめ考慮して施設づくりやデザインをすることを指しています。

景観管理は、時間に伴う維持管理はもちろんのことですが、まず時間の持つ作用を配慮した施設計画やデザインが基本となるといえます。

次頁に示すような視点から、景観管理に対する考え方を確立してください。

## 景観管理の視点

### A 「地域にふさわしい景観づくり」の視点

- ・地域の景観テーマにふさわしく、かつ時の経過に耐えられる素材や形態の選択が重要です。
- ・過剰なデザインは、維持管理（ハード管理）上の問題を招きがちです。長い年月の間に培われてきた緑や水の景観のあるところでは、人為的な施設は極力抑え、育成管理（ソフト管理）で対応できる工夫をすることが大事です。

### B 「まちにやさしい景観づくり」の視点

- ・きれいなタイル舗装面に、埋設物の敷設や管理のために掘り返された痛々しい跡がよく見受けられます。施設整備に際しては、他の施設の補修、点検等も考慮に入れた計画・設計も必要です。
- ・緑は生きた景観素材です。植えつけてから効果を発揮するまでは、数年の時間が必要です。その間、生き物に対するやさしい管理が必要となります。

### C 「手を取りあう景観づくり」の視点

- ・公共施設は種類に応じて管理者が決められ、それぞれが別個に管理されています。しかし、利用者にとっては同じ公共の空間です。良好な公共景観の維持のためには、管理者相互の調整や協力が重要といえます。
- ・ハードの修繕・補修は別にしても、日常的なメンテナンスについては多様な方法を考えていくことが必要です。利用者や住民による管理への参加もその一つといえます。管理参加は、施設への愛着を育て、一方でよりよい施設利用を促すことにも役立つでしょう。

## ●景観管理チェックを行う

計画している施設について次の項目をチェックし、事前に維持管理計画を立てる場合や、実際に施設管理を進める際に留意するようにしましょう。

- 地域と調和した素材、形態となっていますか？
- 耐用性のある素材を採用していますか？
- 汚れにくい工夫をしていますか？
- 管理が複雑な施設を導入していませんか？
- 定期的な点検・補修等を考慮に入れていますか？
- 特性を理解して樹種を選定していますか？
- 植物が将来にわたって正常に生育できるように配慮して植栽計画を検討していますか？
- 関係各課で管理について話し合っていますか？
- 地域住民と利用や運営について話し合っていますか？

●その他維持管理上の課題となる要素がある場合は抽出し、対策や方策を検討してください。

# 3.施設別景観整備マニュアル

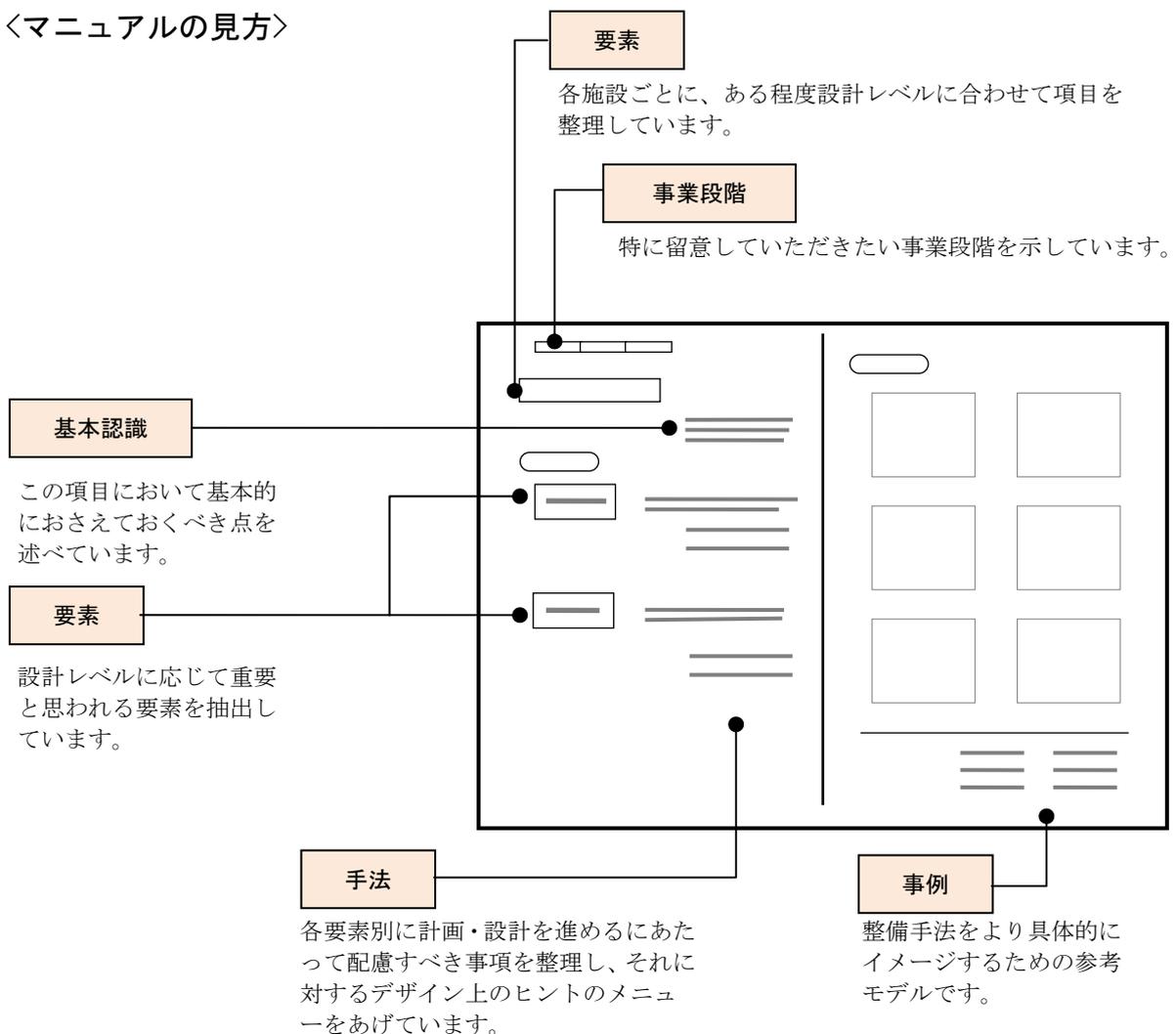
## マニュアルの使い方

各公共施設別に、具体的な景観整備の手法を整理しています。

景観整備検討図を作る際の参考資料として、また設計を進めるにあたっての技術マニュアル、事例集として活用してください。

ただし、この景観整備マニュアルはあくまでも参考の一つであり、与えられた条件の中で最適な設計を進めるためのきっかけでしかありません。それぞれのケースにおいて、このマニュアルをヒントに創造性豊かな質の高い事業を推進してください。

### <マニュアルの見方>



## 道路

●テーマを発見する	地域特性、沿道特性	P.36
●道路空間の形を決める	道路線形、道路構造、幅員構成	P.38
●節目を考える	交差点広場、橋梁、道路線形、 駅前広場、駐停車場	P.40
●快適性を与える	路面、植栽	P.44
●うるおいあるみちをつくる	歩車分離施設、自動車交通用施設、 街路照明、歩行者用施設、公益施設	P.46

## 河川・水路

●テーマを発見する	地域特性、沿川特性、水辺のネットワーク	P.52
●空間構成を考える	河道形態、堤防・護岸	P.54
●節目を演出する	橋梁、水辺の広場、船着場	P.56
●快適性を与える	水面、緑、水生動植物	P.58
●うるおいある水辺をつくる	休息施設、柵・フェンス、サイン	P.60

## 公園・緑地

●役割を認識する	機能区分、地域特性、ネットワークの形成	P.64
●まちとのつながりを考える	境界処理、エントランス、配置・動線	P.66
●快適性を与える	植栽、流れ・池	P.68
●親しまれる公園をつくる	公園施設・その他	P.70

## 公共建築

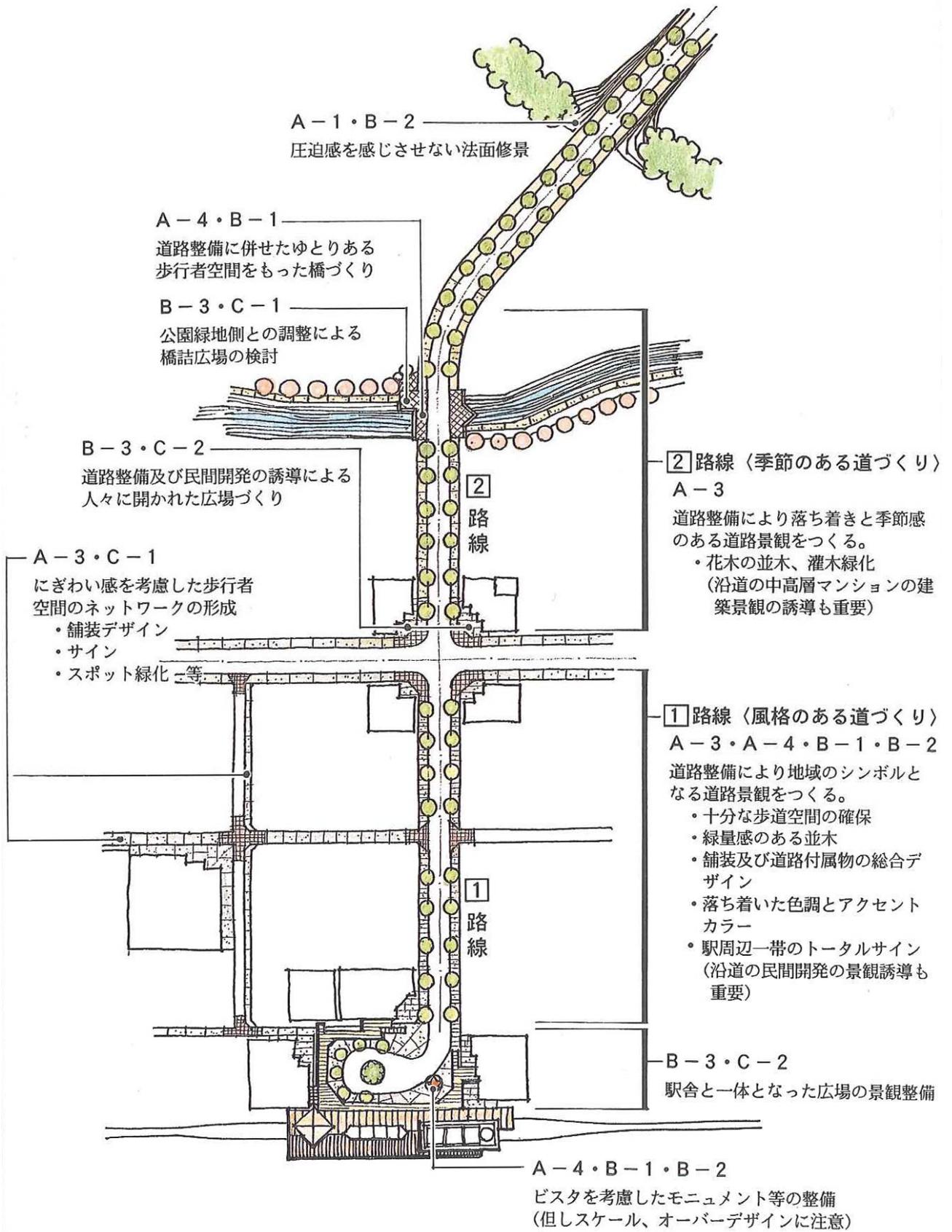
●役割を認識する P.74	地域特性、規模、形態	
●まちとのつながりを考える	配置、境界処理	P.76
●快適性を与える	緑化、素材、色彩	P.78
●親しまれる建物をつくる	付属施設、その他	P.80

## 道路の景観整備マニュアル

道路は地域の骨格を形成し、さまざまな景観構成要素を結びつけるたいへん重要な公共施設です。

景観形成における先導性や波及効果を意識した、魅力あるみちの整備を進めてください。

道路の景観整備検討図（例図）



## テーマを発見する

道路全体としての個性を把握し、道路の性格にふさわしい景観づくりをするために、まず「テーマ」づくりをしましょう。テーマは、個々の景観構成要素を統合していくためにも、極めて重要といえます。

### 景観づくりのガイド

#### 地域特性

テーマづくりをするにあたっては、その地域特有の資源や将来の地域イメージなどを正確に把握することが大切です。その周辺の地域特性を踏まえ、個性の表現に役立てましょう。

- ・ 自然が豊かな地域では、人工的施設は控えめにデザインする。
- ・ 歴史的雰囲気を持つまちなみでは、現代的イメージを有するものは目立たなくしたり、除去できるものは除去する。
- ・ その地域に特有の素材があれば、上手に活用する。

#### 沿道特性

道路景観は、道路本体と沿道が一体となって形成されます。沿道の眺めで特徴的なものを道路からみえやすくするなどして、個性ある景観づくりに務めましょう。

- ・ 河川や水路に沿って走る道路では、水面を見せるよう工夫する。
- ・ 歴史的な建築物や古いまちなみなどは、歴史的個性としてのイメージを整える。
- ・ 田園や畑などの季節の変化による風物詩を、道路景観に取り入れる。

## 景観づくりのアイデア



豊かな自然を引き立たせるよう、人工的な工作物の色彩や規模に配慮する。



道路空間をできるだけすっきりさせることによって、歴史的なまちなみを演出している。



市のシンボルである「藤」の花が、道路に彩りを提供している。



沿川の歩道空間では、座れる場所を用意し、柵のデザインを透過性の高いものとするなど、水面への眺望を楽しめるデザインにしている。



寺町のイメージに合わせて、舗装や車止めなどをデザインしている。



沿道の風物詩を道路景観に取り入れる工夫をする。

## 道路空間の形を決める

道路の基本の形や骨格を決めるにあたっては、機能上の条件を整理し、目標とすべき道路の姿を描いてみる必要があります。道路自体が良質な景観資源となるような計画・設計を心掛けましょう。

### 景観づくりのガイド

#### 道路線形

平面的にも立体的にも、滑らかで連続性のある線形となるよう配慮しましょう。

- アイストップ：  
人の視線を引きつけるもの
- ビスタ：  
一定方向に軸線を持った風景
- シーケンス：  
視線の移動につれて  
連続して変化する景観

- ・直線道路ではアイストップ、ビスタの形成が、曲線道路ではシーケンスの形成がポイントになる。
- ・既存の微地形や景観資源をなるべく活かせるよう、線形を工夫する。

#### 道路構造

沿道との調和に配慮した横断面の構成を考えましょう。

- ラウンディング：  
切土・盛土などにより生じた  
法面などを滑らかに  
擦り付けること

##### <平面処理>

- ・緑化やラウンディングによって地形になじませる。
- ・緩勾配にして圧迫感を軽減する。
- ・法尻をデザイン的に処理する。

##### <レベル処理>

- ・歩車道境界は、視覚的にやわらかい印象の構造を採用する。
- ・歩道の横断勾配は小さくする。(車いすへの配慮)

#### 幅員構成

道路の個性に合わせて、車道・歩道・植栽帯などの幅員の組み合わせを検討しましょう。

- ・歩行空間は、できる限り広く確保する。  
(車いすが安全にすれ違えるよう配慮する)
- ・歩道はヒューマンスケールを考慮したデザインに努め、必要に応じて人の滞留できるスペースを設ける。

## 景観づくりのアイデア



街路樹と照明灯がビスタを形成し、舗装によって連続性の美しさが強調されている。



線形に少し変化を与えて分離帯に既存の巨木を保存し、ランドマークとしている。



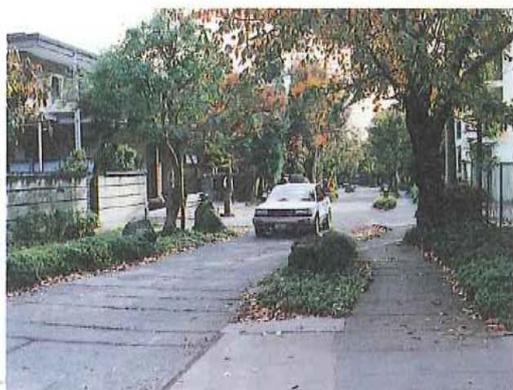
法面が、緑と石によってやわらかく修景されている。



歩道と車道の段差をなくし、舗装とフラワーポットで区分している。また、沿道の学校の協力によって歩道を広くとっている。



すっきりとした車道、広い歩行者空間、高木による植栽でバランスよく修景されている。



住宅地内のコミュニティ道路が、落葉樹や石などを用いて、親しみやすくデザインされている。

## 節目を考える

道路は軸景観として連続しており、その設計においては節目として目立たせる場所、控えめに存在感を抑えるべき施設等の見極めが大切です。道路の位置づけやその場所の周辺条件を考慮して、要所のデザインを検討しましょう。

### 景観づくりのガイド

#### 交差点広場

交差点においては、景観上の要所であることを意識した設計が望まれます。また、広い交差点の角地や道路線形によって生じる残地等については、広場としての利用を検討しましょう。

- ・ 節目を意識したデザインを施し、道路景観に良質のアクセントを与える。
- ・ 隅切りの形状や角地の利用については、沿道との一体的な整備を検討してみる。
- ・ 煩雑な印象を与えるようなものは極力設けない。

#### 橋梁

橋梁も交差点同様、道路景観上の節目となる部分です。橋詰や橋上には節目を意識したデザインを施すとともに、眺望のための空間を確保するよう心がけましょう。

##### <橋詰>

- ・ 憩いのあるスペースあるいはアイストップとなるような橋詰広場を創出する。

##### <橋上>

- ・ 必要に応じて展望バルコニーを設ける。
- ・ 個々の要素のデザインモチーフを統一したり、構造を一体化するなどして、まとまりをもたせる。

- デザインモチーフ  
デザインの主題とする素材

## 景観づくりのアイデア



交差点角地に広場スペースをつくり出し、シンボルツリーですっきりと整えている。



交差点広場が、角地の地蔵を保存して修景されている。



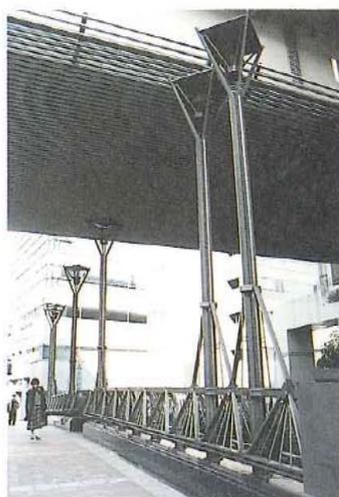
小さなスペースでの緑化が、まちかどにうるおいとアクセントを与えている。



橋詰広場が緑のオープンスペースとして修景されている。



橋上バルコニーにて歩行者がたたずみ、水辺を眺めることができるように整備されている。



欄干と照明を一体的にデザインし、歩行者空間にゆとりを持たせている。

## 節目を考える

### 道路線形

#### ●ランドマーク：

土地や場所の目印となるもの

#### ●デッドスペース：

利用されていない死地を意味する。(ごみ等がたまりやすい)

地域のランドマークとして目立つデザインにする場合と、シンプルで存在を主張しない控えめなデザインにする場合があります。道路及びその場所の位置づけに見合ったデザインを検討しましょう。

- ・ オーバーパスについては外部景観に配慮し、周辺と調和させる。
- ・ アンダーパスについては内部景観に配慮し、圧迫感の少ない構造とする。
- ・ 接続部を周辺の地形や建物に合わせて上手に納め、なるべくデッドスペースが生じないようにする。

### 駅前広場

駅及び駅前地区はひとつのまとまりとして、まちの顔を形成しています。まちの大きさや活動に見合ったスケールとデザインを備えた駅前広場の計画が望まれます。

- ・ 交通の結節点としての機能だけでなく、人々の交流拠点としての役割も考慮したオープンスペースを確保する。
- ・ 駅前広場とそこにつながる道路に連続性を持たせる。
- ・ ビスタポイントとして上手な演出をする。
- ・ 電車、LRT、バス等の交通機関同士の乗り継ぎを円滑にできるよう、それぞれの乗降スペースを配置する。

### 駐停車場

人や車の集積が見込まれる場所では、自動車や自転車による路上空間の混乱を避けるため、可能な範囲で駐車あるいは停車スペースの設置を検討しましょう。

- ・ 自動車の駐停車スペースの舗装を、車道や歩道と識別できるようにする。
- ・ ポケットスペース的に自転車駐車場の用地を確保する。
- ・ サイクルスタンド等の利用を図り、整然と並ぶ工夫をする。

## 景観づくりのアイデア



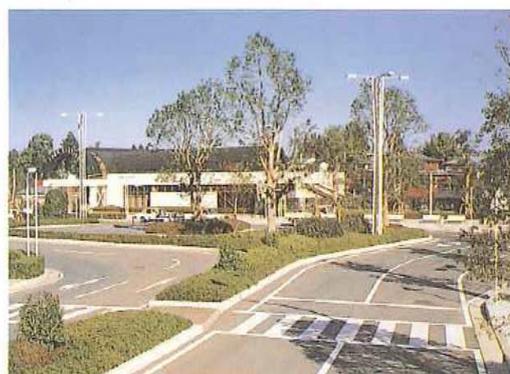
オーバーパスの取り付け部に緑化を施し、ヒューマンスケールの確保に努めている。



地下道出入口において、採光に配慮し、緑化スペースも提供している。



憩いの空間が、駅前広場の一面に設置されている。



駅前広場において、ビスタのアイストップとなる位置にシンボルツリーが設置されている。



駐停車スペースの舗装を、車道スペースと区別している。



商店街のコミュニティ道路の一部に、駐輪スペースを確保している。

## 快適性を考える

誰もが快適に利用できる道路とするためには、視覚的な快さとともに歩きやすさが要求されます。緑や舗装材を上手に活用することで、道路空間の質の向上を図りましょう。

### 景観づくりのガイド

#### 路面

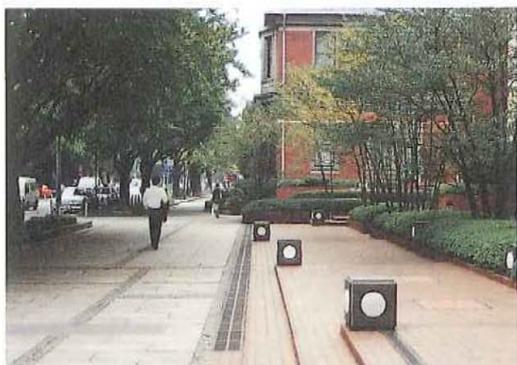
路面は道路景観を形成する重要な要素です。舗装材の選定・決定にあたっては、スケール感、質感、色彩、線や面が織りなす形態に留意し、違和感などを与えることがないようにしましょう。

#### 植栽

緑は、道路空間の装いに欠かせない要素です。植栽計画にあたっては、道路幅員に適合させた樹種の選定及び配植を心掛けましょう。

- ・都市の顔となる通りには、格調ある高木でシンボル性を演出する。（例：ケヤキ、クスノキ、ユリノキ、イチヨウ等）
- ・樹木の特性（新緑、紅葉、落葉、開花、結実など）を活かす。

## 景観づくりのアイデア



歩道の舗装に落ち着いた色調の石材を用い、歩道状空地の舗装との調和が図られている。



商業地の舗装において、インターロッキングによるリズムカルなパターンが、適度にぎわい感を生み出している。



住宅地の舗装において、アスファルトと石材を用いて、連続性と変化を演出している。



ボリューム感のあるケヤキの並木でビスタを形成し、シンボル性を強調している。



歩道の植栽帯に花々を植え、彩りのある美しい街路景観を形成している。



低木による連続植栽帯と高木の街路樹の組み合わせにより、まちなかに緑のネットワークを形成している。

## うるおいあるみちをつくる

道路にゆとりやうるおいを生み出すためには、道路景観を混乱させる要因となりがちな各種設置物などをできるだけすっきりとまとめることが必要です。適正な数と配置、施設相互のまとまりに留意するとともに、洗練されたデザインとなるよう心がけましょう。

### 景観づくりのガイド

#### 歩車分離施設

(車止め、ガードレール)

交通の安全性が確保できる範囲で、道路の美観を高める工夫が必要とされます。

- ・ 街路照明や歩行者用施設と配置やデザインを統一する。
- ・ 暗色系（例えば 3G3.5/2.0）にしたり、植栽で隠すなどして目立たなくする。
- ・ 他の施設との兼用や組み合わせを検討する。

#### 自動車交通用施設

(標識、信号機)

最低限必要なものだけに視覚的情報を整理するとともに、その周囲の錯綜感を緩和するよう工夫しましょう。

- ・ 目立つ必要のない裏面、支柱には、低明度、低彩度の色（例えば 10YR3.5/2.0）を用いる。
- ・ 他の施設との支柱の共用（共架、統合）をはかる。

#### 街路照明

本来の照らす機能のあり方とともに、景観との調和や空間的な連続のあり方を考慮しましょう。

- ・ 光源部の高さを統一する。あるいは変化を持たせて演出する。
- ・ 車道、歩道灯はできるだけ統一する。
- ・ 不快な光環境を防止するため、照明の輝度を抑え、光源が直接見えないようにする。
- ・ 通りの個性を創出するため、通りごとに照明の輝度、路面照度、色温度等の統一を図る。

## 景観づくりのアイデア



ベンチを兼ねる車止めが、住宅地の街路景観にアクセントを与えている。



暗色のガードレールを植栽で目立たせないようにしている。



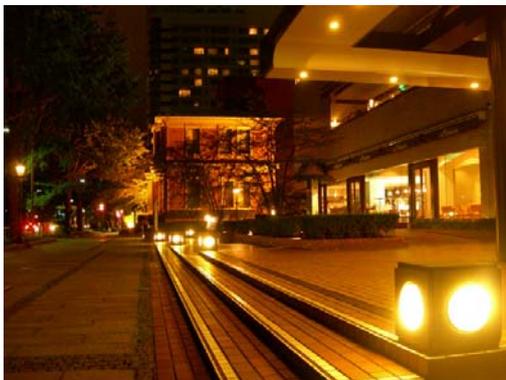
ミラーの支柱と裏面を暗色にして、周囲と調和させている。



標識と照明の支柱を統合してデザインしている。



照明灯や信号などの支柱の配置やデザインを統一し、連続性を生み出している。



通りの個性を創出するため、夜間照明は、公共空間、敷地内とも、暖色系の色温度に統一している。

# うるおいのあるみちをつくる

## 歩行者用施設

### (ストリートファニチャー)

- ストリートファニチャー  
街路備品。街灯やベンチなど

道路への親しみやすさや利便性を高めるうえで、歩道や小広場へのストリートファニチャーの設置は効果的です。必要以上に装飾的にならないように留意し、その場の環境にふさわしいデザインを検討しましょう。

- ・舗装や沿道建築物等と調和した色彩を用いる。
- ・周辺の諸施設（ガードレール、照明灯等）とデザインの統一を図る、あるいは一体化を検討する。
- ・通行の妨げにならないよう配慮し、効果的な場所に設置する。

## 公益施設

### (電柱・電線、その他)

電柱・電線はできるだけ地中化することが望ましく、それが不可能な場合でも、他の施設と調和させるなどして、道路景観に与える影響を少なくする努力が必要です。また、ゴミ集積所等についても、道路上であからさまに目立たないように配慮しましょう。

#### <電柱・電線>

- ・地中化の場合は、地上に設置される設備機器（配電盤、変圧器等）への対応を検討しておく。
- ・電柱・電線を植栽で隠す。暗色にして目立たなくするなど工夫する。
- ・電柱・電線をまとめる、規則的に配置するなど整理する。

#### <その他>

- ・郵便ポストやごみ集積所等は、歩行者空間及び道路景観を阻害しないよう配慮していく。

## 景観づくりのアイデア



植栽の合間に置かれた彫刻やベンチが、街路空間に潤いを提供している。



大木の下にちょっとした休憩スペースを設けているバス停留所。素朴なデザインのベンチやサインが、歴史的なまちなみに調和している。



設備のキャビネットを暗色化し、植栽帯の中に目立たないように設置している。



すっきりとデザインされた景観柱を植栽帯に配置。このまちなみの場合、電柱を暗色にしない方が目立ちにくい。



防火水槽も工夫次第で通りのアクセントになっている。

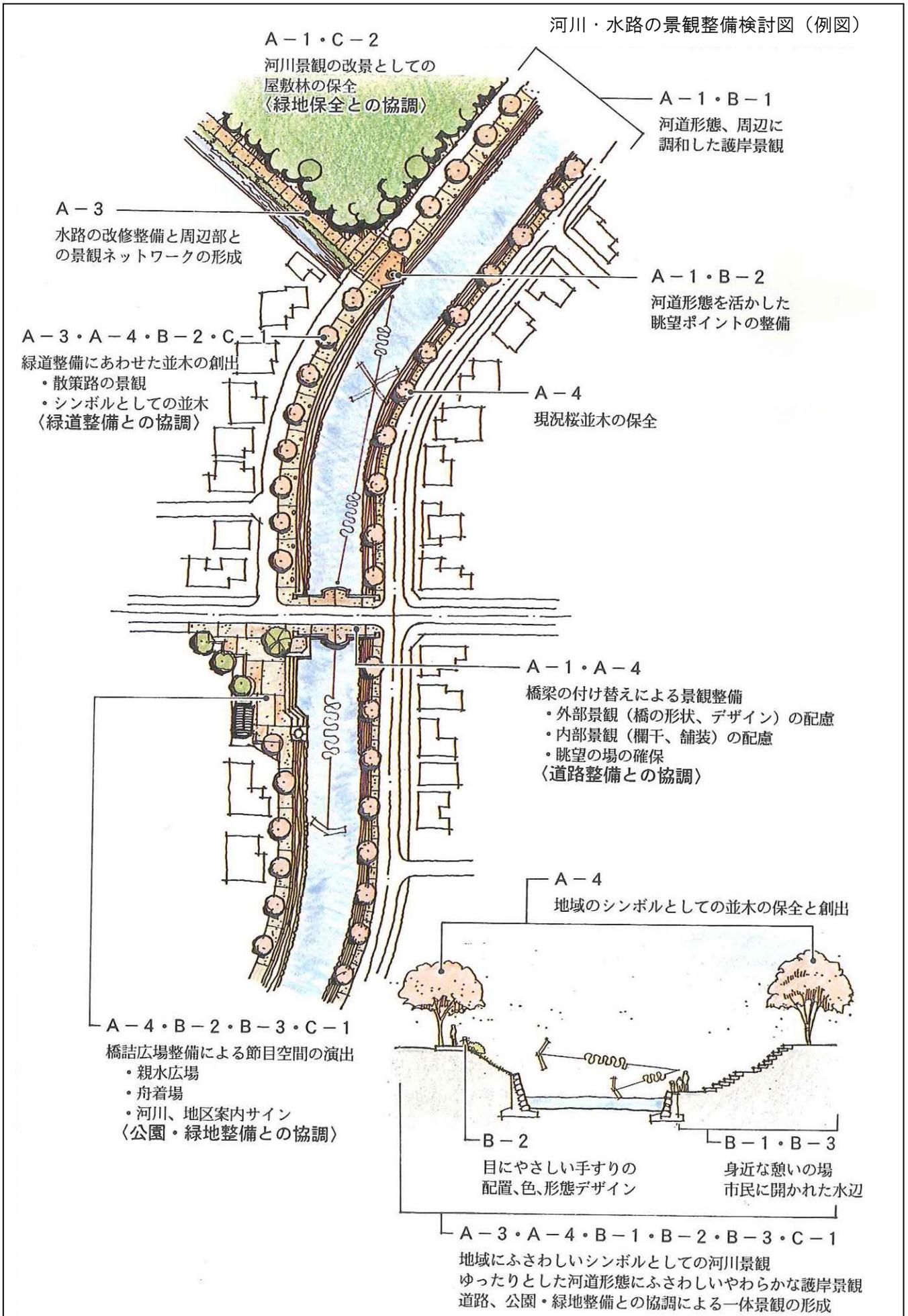


まちなみに配慮したオリジナルのデザインの自動販売機により、まちなみに溶け込んでいる。

## 河川・水路の景観整備マニュアル

河川・水路も道路と同様に線的景観として地域の骨格を形成します。それぞれに固有の良いものや貴重なものを保存・活用しながら、人とのかかわりを大切にした水辺景観を整備してください。

河川・水路の景観整備検討図（例図）



## テーマを発見する

川の持つ原風景を活かした景観形成を進めるためには、課題や空間特性を分析し、それに見合った「テーマ」を設定することが必要です。どんな川なのかを十分に把握し、基本イメージを形成させることから出発しましょう。

### 景観づくりのガイド

#### 地域特性

地域に存在する景観的な資源を大切にしながら、その場所にふさわしい景観づくりを考えましょう。

- ・旧堤防の歴史性や緑地としての重要性をアピールし、積極的に保全していく。

#### 沿川特性

沿川の雰囲気に応じて、デザインの傾向を合わせたり、利用形態をコントロールするなど、沿川土地利用との関係に配慮して、整備イメージを検討しましょう。

- ・沿川に斜面樹林や田園風景が広がっている場合は、それらと一体と考えた景観整備を考える。
- ・市街地を流れる河川では、シンボルとなるような施設の設置（ただしオーバーデザインは避ける）や、水に親しみやすい護岸の整備などを検討する。
- ・公共施設周辺においては、河川と公共施設が一体となった整備をあらかじめ検討しておく。

#### 水辺のネットワーク

河川・水路の空間利用に関する骨格的な枠組みとして「春日部市都市計画マスタープラン」の「水と緑のネットワークの形成」に留意する。計画している施設の位置づけを確認し、整合性を図るようにしましょう。

## 景観づくりのアイデア



春日部市の水、緑、歴史を象徴する河川景観。かつては船便による江戸との交流が盛んに行われていた。



河川沿川地区の歴史、生態系などを伝える公共サインが、ゆとりある歩行者空間の連続性を阻害しないように配置されている。



沿川の田園や樹木がシンプルな流れと一体となって、ほのぼのとした風景を作り出している。



水辺にも歴史的なまちなみにも良く似合うヤナギを、シンボリックに扱っている。



市街地の家並みに溶け込んでいるヒューマンスケールな水辺。



河川と公園が一体となって、水と緑のうらおい空間を提供している。

## 空間構成を考える

河川空間は、流軸方向の連続性、横方向の広がり、上下方向の高低差で構成されています。この3つの要素に配慮し、スケール感をしっかりと把握した計画・設計を心掛けましょう。

### 景観づくりのガイド

#### 河道形態

河道形態はその川のイメージを左右するものであり、川らしさを演出するために重要な役割を持っています。河道の特徴そのものを前面に出した整備を検討しましょう。

- ・大落古利根川においては、川の自然や雄大さを損なわないよう空間づくりを行う。
- ・その他の河川、水路においては、できるだけ水を身近に感じられる河道形態となるよう工夫していく。

#### 堤防・護岸

人々が快適で安全に水に接することができ、水と陸とを違和感なく結びつけるよう配慮しましょう。

##### <形態>

- ・整備用地が確保できる場合は、高水敷を広く取り、緩傾斜護岸とする。
- ・整備用地が確保できない場合でも、材料やデザインを工夫し、視覚的親水性を高める。

##### <素材>

- ・川幅や背後の環境の配慮し、河川空間全体について一貫したデザインの考え方のもとに素材を選択する。
- ・できる限り天然の素材を用いることが望ましく、コンクリートを用いるような場合は、表面処理に工夫を施し、エイジングにも留意する。

- エイジング時のデザイン

## 景観づくりのアイデア



緑豊かでのびのびとした河川景観を守り育てていくことが大切。



川がつくり出す自然な流れには表情があり親しみが感じられる。



護岸と低水路をなだらかに結び、沿川の小広場と河川空間の一体感を生み出している。



コンクリートの表面に模様を入れて、直立護岸に表情を与えている。



直線的で端正な石積みの護岸が、しっとりとしたまちなみに調和している。



不整形のコンクリートブロックを野面積みにし、天然素材のような趣を持たせている。

## 節目を演出する

河川・水路も道路と同様に連続した軸景観を形成するものであり、単調になりすぎること避けるためにも、アクセントを設けることが必要です。河川景観の視点場や水面利用の拠点施設など、川を印象づけるための要所を演出しましょう。

### 景観づくりのガイド

#### 橋梁

橋は河川空間を区切る横断構造物として、目立ちやすい存在です。周辺地域の性格を考慮して、形態（デザイン、スケール感）や色彩を決定するようにしましょう。また、橋と護岸のすりつけにも配慮しましょう。

- ・ まちの顔となるべき所では、格調高いデザインとする。
- ・ 市街地の中小河川では、シンプルで親しみやすいデザインとする。
- ・ 自然地では、自然景観への威圧感をやわらげたデザインとする。
- ・ 橋と川の一体感を生み出すために、橋詰広場に階段等を設け、水辺に近づける工夫をする。

※橋梁の内部空間については、「道路の景観設計マニュアル」をご覧ください。

#### 水辺の広場

合流点などのアイストップとなるような場では、川らしい景観を楽しめる、水面を見晴らす場を確保しましょう。

- ・ 用地獲得の際、残地が生じる場合、ポケット広場的な親水化を図る。
- ・ 他の公共施設（公園等）と一体化させて見晴広場を設ける。

#### 舟着場

人と船の動きにともなう動的景観に留意し、機能的なデザインを基調としましょう。

- ・ 堤内地との一体的な設計を心がける。
- ・ 堤防、護岸と棧橋等の接続をすっきりとみせる。

## 景観づくりのアイデア



落ち着いたある格調高いデザインの橋。



橋本来の機能に加えて、この橋の持つ遊び場的な特性も考慮し、身近で親近感のあるデザインをワークショップを通じて実現している。



橋詰に橋上と水辺を結ぶ階段を設け、水辺へのアクセス性を高めている。



河川の合流点において、親水性のある小広場を整備している。



橋詰に親水広場を整備している。



湾曲部の広さを活かして、水辺の広場及び船着き場が整備されている。

## 快適性を与える

水に親しみ、水辺を眺める機会を生み出すためには、人々の目を楽しませ、心に安らぎを与えるような快適な水辺らしさの創出が大切です。川の原型であるきれいな水・豊かな緑・多様な生物の保全と回復に努めましょう。

### 景観づくりのガイド

#### 水面

水面が与える印象は、河川景観に大きな影響を及ぼします。水面の演出に配慮し、水の表情に変化をつけてみましょう。また、水辺のアメニティの向上のためには、水量や水質にも留意が必要です。

- ・ 落差工や堰によって、川の流れに変化をつけ、水に動きを与える。
- ・ つねに一定以上の水量が確保できるよう考慮しておく。
- ・ 快適な環境形成に求められる水質を達成する。

#### 緑

水辺に彩りや季節感を提供する要素として「緑」を上手に活用しましょう。

- ・ 既存樹については、できる限り保全・活用を図る。
- ・ 植栽する場合は、河川空間にあった生態的に無理のない樹種を選定する。

#### 水生動植物

河川環境を向上させようとするとき、生物との共存を図る手法は有効です。現存する植生を保全し、水辺の生物の保全に努めましょう。

- ・ 自然の風化や生物の自然繁殖を計画に取り込み、つくりすぎないようにする。
- ・ 生物の生活に適正な流れ、安定した水質を確保する。

## 景観づくりのアイデア



小さくて規則的な段落ちを設けることで、リズムを感じさせ、水の表情を豊かにしている。



無造作に散らばる石がアクセントとなって、水に動きを与えている。



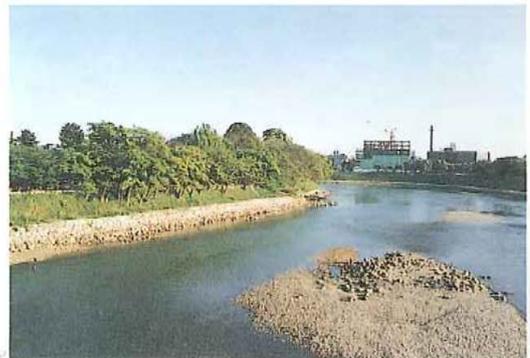
自然のままの護岸形態や桜並木など、積極的に保全する。



花や緑の演出が、水辺を歩く人々の目を楽しませている。



水鳥の姿は、川が様々な動物の生息場所であることを知らせてくれる。



水位の変動に伴って現れる州浜は、水辺への近づきやすさや生態系の意味からも大切。

## うるおいある水辺をつくる

河川などの水辺空間は、まちにうるおいと憩いを与えるオープンスペースです。水辺らしい小道具の導入を検討し、景観を効果的に演出してみましょう。

### 景観づくりのガイド

#### 休息施設

人々が親水性を求めて水辺に集うとき、休息のための施設が必要となります。デザインの自由度が大きい施設ですが、設置個所周辺との整合性に十分配慮してください。

- ・市街地においては、周辺整備のデザインコンセプトに依拠する。
- ・自然環境においては、シンプルなデザインや自然林を採用し、さりげない配慮を心がける。
- ・堤外地に設置する場合は、管理上の制約が大きいので留意する。

#### 柵・フェンス

安全性を確保するため柵やフェンスを設けるような場合においても、疎外感を与えないような工夫が必要です。

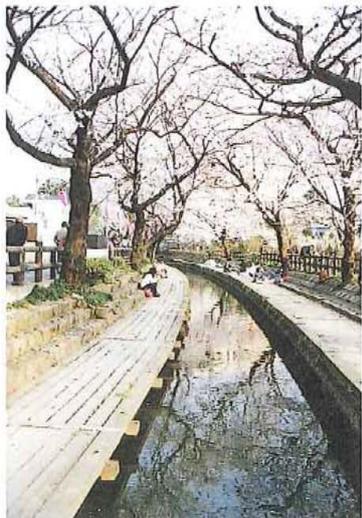
- ・柵の透過性を高め、景観の連続性を確保する。
- ・景観になじむ材質や形状を採用する。
- ・色調を抑えたり植栽で隠すなどして目立たなくする。

#### サイン

河川の様々な情報を伝える手段として、またアイストップやランドマークとして、サインの設置を検討しましょう。

- ・機能性に優れるとともに、川らしい雰囲気をも損なわないデザインを用いる。
- ・設置場所にも配慮し、河川景観の向上に役立てる。

## 景観づくりのアイデア



護岸の形態・材料の工夫により、ベンチ等を設けなくても休息の場が生まれる。



落ち着いたデザインのベンチや照明灯が、水辺景観を引き締めている。



透過性が高くリズム感のあるシンプルなフェンス



水辺でゆっくりと休息できるよう、護岸に座れるしつらえにしたり、ベンチ等を設置したりする。



橋詰広場に設けられている記名サインと誘導サイン。落ち着いたデザインを採用している。

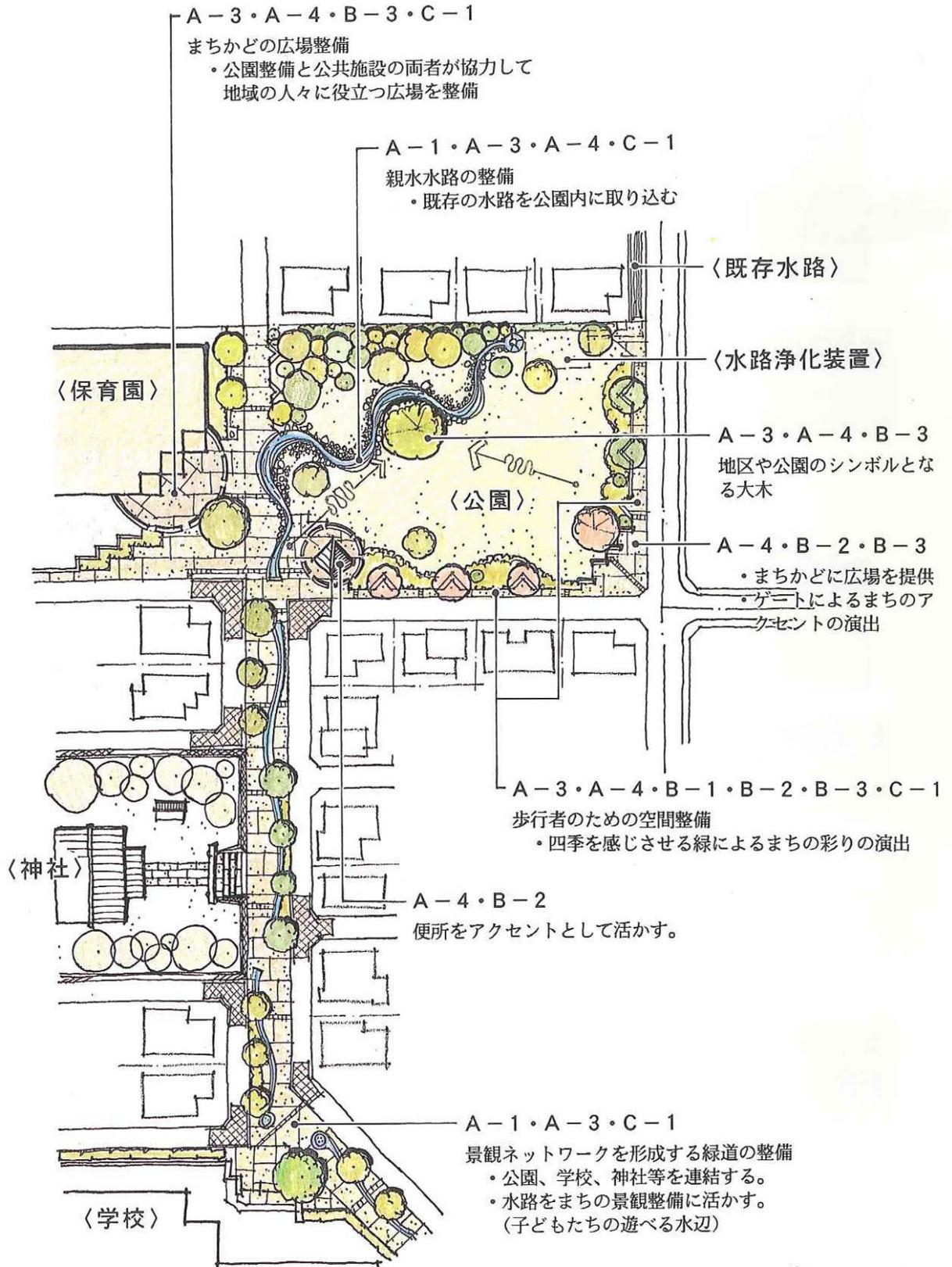


用排水路としての大落古利根川の役割を説明する案内板。河川への親しみやすさの向上を図っている。

## 公園・緑地の景観整備マニュアル

公園・緑地は、まちなみに空間的なゆとりや緑などによる  
うるおいを与えてくれる公共施設です。水と緑の拠点施設と  
して、ネットワークの形成に配慮した発展性のある整備を進  
めてください。

公園・緑地の景観整備検討図（例図）



## 役割を認識する

公園緑地は、都市のアメニティを高めるうえで極めて重要な役割を担っています。質の高い公園、人々に利用される公園をつかっていくため、地域のニーズや将来計画を把握し、基本的な方向を確認しておきましょう。

### 景観づくりのガイド

#### 機能区分

多様化するニーズに対応し、快適な空間を提供するためには、公園・緑地それぞれの役割分担が必要です。その施設の位置づけを確認するとともに、地域の要望や利用形態を把握し、目的にふさわしい機能とデザインを検討しましょう。

- ・大規模な公園については、広域からの利用者のアクセスや公園周辺の景観にも配慮する。
- ・身近な公園では、親しみやすく場所場所の特性に応じた機能構成と景観に配慮する。

#### 地域特性

公園・緑地は、地域のアイデンティティを高める公共空間であり、地域に密着した公共施設です。その地域固有の資源に着目し、積極的に計画に取り入れていきましょう。

- ・周囲の特徴的な風景は、できる限り公園景観に取り込む。
- ・歴史的・自然的な景観資源を、公園デザインに活かす。
- ・地域の行事やイベント等に利用できる空間を確保する。

#### ネットワークの形成

公園・緑地は、まちの緑の骨格となります。公園のような緑の拠点となる主要施設を緑道などの線的な緑で結びつけ、「緑のネットワーク」を形成しましょう。

- ・「春日部市緑の基本計画」の「緑の配置方針」に留意する。
- ・隣接する公共施設や民間施設にも協力を要請し、緑の連続性を確保する。

## 景観づくりのアイデア



大規模な公園において既存の樹林地を保全し、まわりの田園風景との一体性に配慮している。



全体的に和風のデザインで統一された住宅地の中の公園。一角に水車小屋を再現し、田植えや稲刈りも体験できるようになっている。



古戦場に整備された歴史公園。周囲の風景を取り込みながら、広々とした空間に平安時代のイメージを作り出している。



地域住民の憩いの場として、戦国時代の城を再現した公園。田園風景から突出することなくシンプルにデザインされている。



駅前商店街の一角に整備された催し広場。近隣住民のコミュニケーションの場としても親しまれている。



緑道が、緑のネットワークの形成に貢献している。

## まちとのつながりを考える

公園空間は、その存在そのものがまちなみにゆとりやうるおいを提供してくれます。外周部への発展性や連続性のある空間構成及びデザインを検討し、まちに開かれた公園づくりを進めましょう。

### 景観づくりのガイド

#### 境界処理

境界部は、公園と周囲とをつなぐ空間として意識し、開放性の確保に努めましょう。また、境界部を上手に活用し、まちなみにゆとりを生み出しましょう。

- ・ 段差をなくす、舗装材をそろえるなど、公園と歩道の一体化を図る。
- ・ 境界部を後退させて、まちに向けた小広場やたまり空間を設ける。
- ・ 柵やフェンスを設けなくてはならない場合でも、閉鎖的なものは避ける。

#### エントランス

エントランス部は、まちに向けた公園の顔です。親しみやすい広がりのある空間づくりを行うとともに、表情豊かな演出を心がけてください。

#### ●エントランス 玄関、入口

- ・ できる限り歩道と一体化したエントランス広場を設ける。
- ・ メインエントランスには、識別性の高いデザインを検討する。
- ・ 主要な街角に位置する場合は、まちなみにアクセントを与えるような工夫をする。

#### 配置・動線

誰もが親しみやすい公園づくりをめざし、様々な人々の利用を考慮した配置及び動線計画を検討しましょう。

- ・ 安全な利用を促すため、周囲の道路等から園内への見通しを良くする。
- ・ 車いす等の利用に配慮し、園路の有効幅員・平坦性の確保や段差の解消に努める。

## 景観づくりのアイデア



緑を上手に活用してソフトに修景されている開放的な境界及びエントランス。



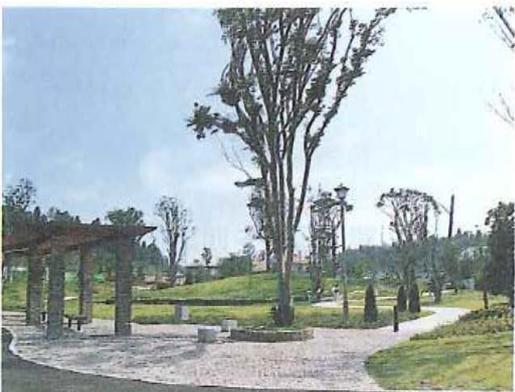
園路と歩道を一体的に整備し、まちに向けたたまり空間を生み出している。



公園と歩道を低い植栽で分離し、同一の舗装材を使用することで、視覚的一体性を創出している。



メインの入口となる場所に長屋門を配置し、シンボリックに強調している。



公園の入口に配置されたシンボルツリーが、アクセントとなっている。



車いすのままで水面に近づくことができるようデザインされている。

## 快適性を与える

うるおいのある公園景観は、公園利用者に快適さを与えるだけでなく、まち全体の快適性をも高めます。「緑」と「水」を効果的に配し、豊かでうるおいのある公園づくり、まちづくりを展開しましょう。

### 景観づくりのガイド

#### 植栽

植栽は公園の雰囲気をつくる重要な要素です。公園の機能に応じた植栽構成と、地域に根差した樹種の選定を心がけましょう。

- ・ 樹木や草花が生育する空間と、人々が利用し安らぐ場のバランスを考える。
- ・ その土地本来の潜在自然植生に合った樹種を植える。
- ・ 自然が豊かな地域では、周辺の緑との相乗効果を考える。
- ・ 市街地の広場的性格を持つ公園では、高木で緑量感を確保し、足元はすっきりと歩きやすく広がりのある空間形成とする。
- ・ 住宅地の中では、花の咲く木や実のなる木などで、楽しさや四季の移り変わりを演出する。

#### 流れ・池

水は緑とともに、自然を象徴する代表的要素であり、水のある風景は人々の心を和ませます。必要性や安全性について十分検討し、環境にふさわしい水のデザインを取り入れましょう。

- ・ 水を使う目的（修景、親水等）を明確にし、効果的なところに設置する。
- ・ できるだけ既存（自然）の水を活かすよう工夫する。
- ・ 修景に用いる場合は、スケール感に留意し、過剰デザインとならないよう心がける。
- ・ 実際に水に触れて楽しむことのできる水質管理に努める。
- ・ ポンプ等の設備の修景に対してもあらかじめ配慮する。

## 景観づくりのアイデア



広い敷地に活用のための緑と観賞用の緑、さらには緑を美しく移す水とがバランス良く納められている。



高木の豊かな緑と、床から吹き上がる水が、都市の中にオアシスを創出している。



親水緑道に多様な樹木が植えられ、周囲の住宅地に四季の彩りを与えている。



かつての農業用水路を活用した親水公園が、地域にうるおいを提供している。



光と水のシンフォニーが、背後の建物（文化ホール）を効果的に演出している。



水を使った装置には、常に子どもたちの楽しそうな姿が見られる。

## 親しまれる公園をつくる

公園は、人々の日常生活と密接にかかわる地域の生活文化財としての要素を持っています。くつろげる雰囲気づくりや楽しめる空間づくりに配慮し、誰もが親しみやすい人にやさしい公園づくりを目指しましょう。

### 景観づくりのガイド

#### 公園施設

公園施設のメニューは、その目的や規模、地域のニーズなどによって様々であり、それぞれの地域の個性が反映されて然るべきものです。施設デザインについては、公園全体としての調和が図られ、周囲のまちなみにもなじむようなものを検討していきましょう。

- ・安全で親しみの持てる材質を採用する。
- ・様々な人の利用を考慮して、配置・形状・寸法を決定する。
- ・大規模な運動施設では、ヒューマンスケールの確保を心がける。
- ・遊戯施設では、子どもたちの自由な発想や創意を引き出せるようなデザインを工夫する。

#### その他

公園の規模や性格によっては、利便性を高めるための施設や空間も必要となります。公園の景観や本来の機能を妨げることのないようなデザインと配置を心がけましょう。

##### <設備機器>

- ・できる限り目立たないよう、また歩行の支障とならないよう設置する。

##### <駐車場>

- ・緑化や分節化をはかり、無機的な空間の広がりを避ける。
- ・使用しない際の他の施設（例えば広場）との兼用についても検討する。

##### <公共サイン>

- ・所管課ごとにバラバラの公共サインを設置するのではなく、共通のデザインにしたり、一つのサインに集約したりすることで、全体として調和のとれたサイン景観を形成する。

## 景観づくりのアイデア



この公園は、石や芝生に裸足で触れることができるようにしている。



豊かな緑で野球場を包み込み、圧迫感のある構造物を隠している。



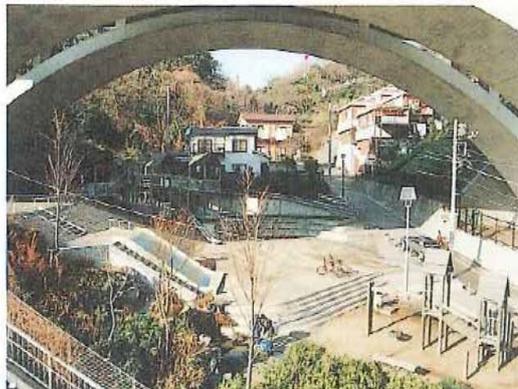
楽しく独創性のある大型遊具が設置されている。



プールの給水設備が、更衣室などの建物と同一のデザインで修計されている。



多様な植栽を用いて、やわらかく親しみやすい駐車スペースを作り出している。



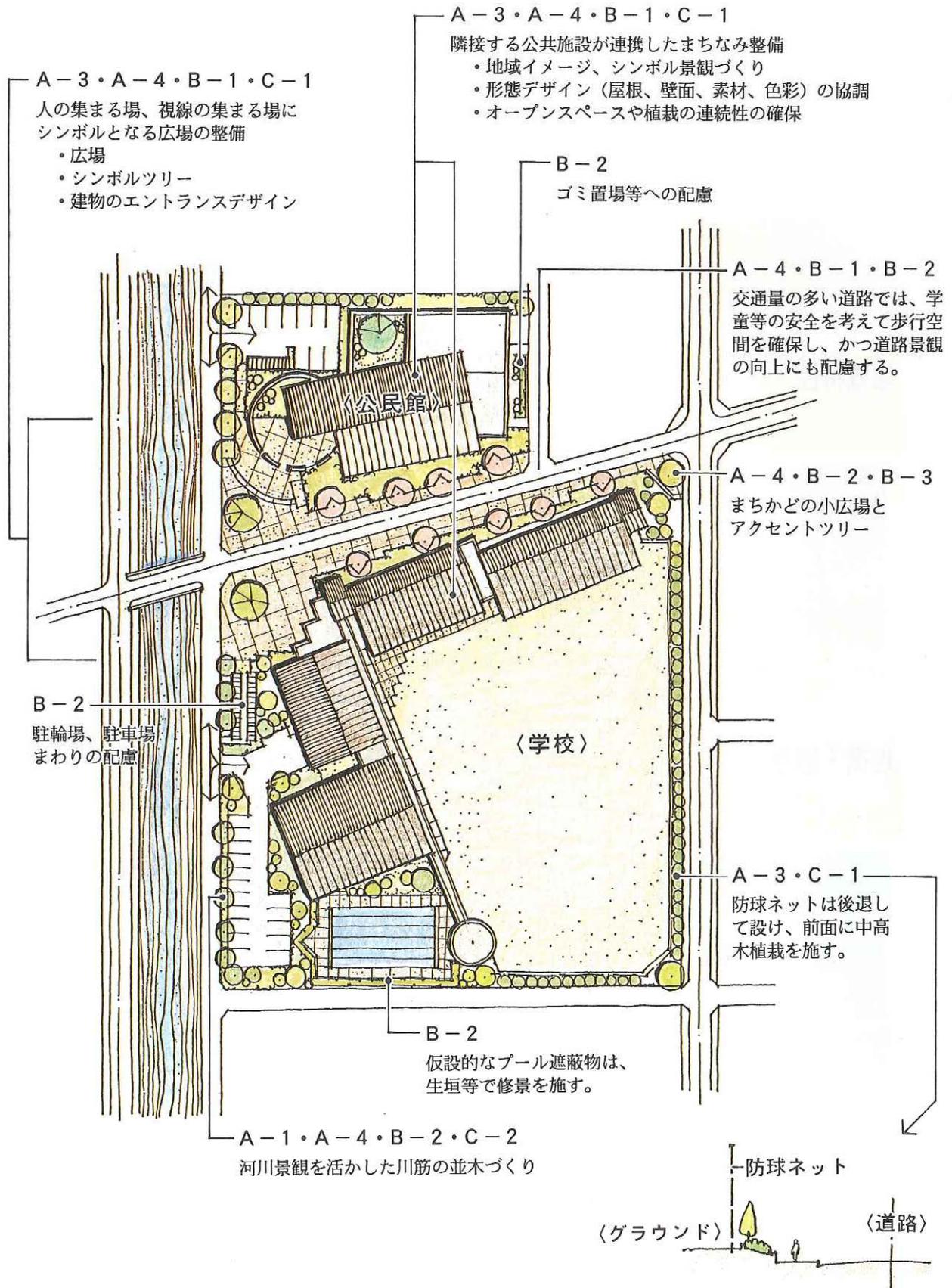
ワークショップで地域の人々の意見を取り入れながらつくられた小公園。

## 公共建築の景観整備マニュアル

公共建築物は生活に密着した公共施設であり、地域に開かれた拠点施設としての整備が望まれます。また、そのデザインがまちなみ景観に対し、先導的役割をもっていることにも十分留意してください。

※別冊で大規模建築物等景観形成ガイドラインを用意していますので、併せてご覧ください。

公共建築の景観整備検討図（例図）



## 役割を認識する

公共建築物は、地域や地区の文化的シンボルとして、あるいは生活向上施設として、デザイン的にも機能的にも大変重要な役割を担っています。地域の在り方や地域の中での位置づけに配慮し、豊かな空間づくりを心がけましょう。

### 景観づくりのガイド

#### 地域特性

地域や地区に根差した親しまれる施設とするためには、まず敷地周辺の環境や特性を熟知することが大切です。地域の空間のつくられ方を把握し、それに対応した建築計画を立ててください。

- ・市街地等の立て込んでいる場所では、できる限り周囲にゆとりの空間を確保する。
- ・郊外や広い敷地に建てる場合は、風景と建築物のバランスに配慮する。
- ・敷地内の樹林や歴史的資源は、保全活用に努める。

#### 規模・形態

建築物の大きさや形は、施設イメージを決定づける大きな要素です。施設の役割及び地域特性を考慮し、適切な規模の設定と、場にふさわしい形態の選択に努めましょう。

- ・まちなみと調和した高さ、屋根形状とする。
- ・壁面の位置を工夫し、まちなみにゆとりや変化を生み出す。
- ・まちかどに立地する場合は、節目としての演出を図る。
- ・分節化等によってスケール感を調整する。

## 景観づくりのアイデア



建物を後退させて、まちにゆとり空間を提供している。



背後の樹林や前面に広がる田園などの風景から突出することなくデザインされている。



瓦葺屋根、無双窓など和風の建築形態を採用し、周囲の住宅地との調和を図っている。



一階の壁面を後退させることで、歩行者に視覚的なゆとりを提供している。



曲面の採用により、まちかどにゆとりスペースを生み出すとともに、視覚的にもやわらかい印象をつくりだしている。



建物のスケール感を周囲の家並みに合わせている。

## まちとのつながりを考える

公共建築物は、まちに向けたゆとりある外部空間の確保が望まれます。周囲のまちなみ及び地形になじませるような建物の配置や敷地の囲い方を検討し、親しみやすく開放的な施設づくりに努めましょう。

### 景観づくりのガイド

#### 配置

配置計画にあたっては、敷地の中だけで考えるのではなく、周辺や地域との関係にも配慮しましょう。地域の活動に合わせて入口の位置や建物の配置を考え、親近感や期待感のある空間を演出してください。

##### ●アプローチ空間

敷地の入口から  
建物の入口までの空間

- ・ 適当な距離のアプローチ空間を取る。
- ・ 通り抜けできる動線を確保する。
- ・ 建物の前面等に広場を設ける。

#### 境界処理

境界部は、施設とまちなみとの接点です。隣接する敷地との関係に配慮し、周辺に対して親しみのある表情をつくりだすようにしましょう。

- ・ できるだけフェンス類を設けないよう工夫する。
- ・ 管理上の理由等でフェンス類を設ける場合でも、閉鎖的なものは避ける。
- ・ 境界部を後退させる、建物をセットバックさせるなどして、まちに向けた小広場やたまり空間を設ける。

## 景観づくりのアイデア



やわらかい緑のアプローチ空間が、建物への近づきやすさを高めている。



一階をピロティにして通り抜け動線を確保し、移動しやすい空間を形成している。



校門の前にポケットパークが配置され、たまり空間を創出している。



建物の敷地と道路に境界及び段差を設けず、まちに向けてオープンな空間を提供している。



小学校と教育センターの境界部に植えられた花木が、彩りを提供している。



境界を一部後退させて、バスを待つ人々のための小スペースを設けている。

## 快適性を与える

建築物は、それを構成する素材や色、外部空間の「緑」の演出等によって、様々な印象を与えるものとすることができます。快適さ、やさしさを意識したデザインを心がけ、まちにうるおいを提供しましょう。

### 景観づくりのガイド

#### 緑化

「緑」は、日常生活空間に欠かせない、生きている素材です。まちなみ環境及び建築デザインの向上に貢献するような効果的な緑化を工夫しましょう。

- ・ シンボルツリーや草花で演出する。
- ・ 壁面の足元に植栽し、圧迫感をやわらげる。
- ・ プランター等を上手に活用し、アクセントをつける。

#### 素材

建物の外装材は、ファサードの表情を作ります。色彩との兼ね合いを考慮しつつ、ぬくもりを感じさせるような豊かな質感を持った素材を選択しましょう。

##### ●ファサード

建築物の正面をなす外観

- ・ 与えられた条件を十分検討し、その場所にふさわしいものを選択する。
- ・ 素材に関する知識（性質、扱い方等）を豊富にし、選択の幅を広げる。
- ・ できる限り耐久性、耐候性に優れたものを使用する。

#### 色彩

色彩は建築物のイメージを左右するばかりではなく、まちなみにも大きな影響を与えます。背景と調和した、地域イメージにふさわしい色を採用してください。

- ・ ベースカラーは、まちなみになじむものを採用する。
- ・ 屋根と壁、床舗装の色調のバランスを取る。
- ・ ふじ色を使用する場合は、アクセントカラーとする。

## 景観づくりのアイデア



シンボルツリーとして中庭に配置された樹齢600年を超えるクスノキ。



敷地いっぱいにはびえる壁面の足元に緑をあしらひ、圧迫感を軽減している。



敷地の歩道沿道部の緑化により、歩行者空間に潤いを提供している。



敷地内緑化が街路樹の緑を補強し、潤いある街路景観を提供している。



駐車場としての機能を阻害しない範囲で、積極的に緑化している。



緑のカーテンの設置や屋上緑化等により、潤いを提供している。

## 親しまれる建物をつくる

公共の建築施設は、様々な人々のふれあいの場となります。誰もが気軽に入出りできるような外部空間の演出や、わかりやすさ、使いやすさに配慮し、利用者が愛着の持てる公共建築づくりを目指しましょう。

### 景観づくりのガイド

#### 付属施設

建築物に付属する様々な施設類についても、建物本体と整合性を持ったデザインを心がけましょう。

- ・形態、素材など建築物本体と揃える。
- ・設備類などは、目隠し壁等をさりげなくデザインする。
- ・外壁をつたう樋や配管類、ダクトなどにも配慮する。
- ・サイン類は、建築物と一体化したデザイン、取り付け方法を考える。

#### その他

外構部における安全性や利便性を確保し、誰もが抵抗なく利用できるやさしい施設づくりを進めましょう。

- ・駐輪場の設置にあたっては、わかりやすさや使いやすさに留意し、人々の適正な利用を促すようにする。
- ・駐車場の出入口においては、見通しを確保する。
- ・駐車場はできるだけやわらかい仕上げとする。
- ・道路から建物の入り口まで、できるだけ段差をつくらぬよう工夫する。
- ・どうしても段差が生じる場合には、スロープを設けるようにする。

## 景観づくりのアイデア



屋外階段が、バルコニーや手すりのデザインと整合させ、建築物本体と一体的にデザインしている。



室外機やメーターなどの設備が目につかないよう、植栽で修景されている。



樋やダクトなどを外壁の内側に納め、ファサードに現れないようにしている。



落ち着いたあるベースカラーの壁面に、サインがアクセントを与えている。



建物と駐輪場、駐車場を一体的にデザインしている。



駐車場にボリュームのある植栽を施しながらも、見通しが確保されている。

